



Jack & Betty プロジェクト海外派遣事業ブリスベン親善大使

平成26年度 燕市海外派遣事業・姉妹都市交流事業

報 告 書

*Our most unforgettable and best
memories*

*We had a wonderful days in Australia
and Tsubame City*



姉妹都市ダンディ使節団

平成26年度燕市海外派遣事業・姉妹都市交流事業報告書 目次

はじめに 燕市長 鈴木 力 2

ごあいさつ 燕市教育長 上原 洋一 3

【姉妹都市交流】

燕市姉妹都市交流事業報告書目次 4

燕市姉妹都市交流事業日程 5

ダンディ使節団員感想、ホストファミリー報告 6

ダンディ使節団体験活動協力者の感想 16

【Jack & Bettyプロジェクト】

海外派遣事業ブリスベン親善大使報告目次 18

海外派遣事業（オーストラリア・ブリスベン市）日程 19

海外派遣事業における燕市PR活動 21

海外派遣事業ブリスベン親善大使報告 22

海外派遣事業ブリスベン親善大使アンケート集計結果 58

広報つばめ 平成26年10月15日号掲載記事 62

随員職員のコメント 64

表紙写真説明

上左：オーストラリア クイーンズランド州バーペンゲリー市のバーペンゲリー・ステート・スクールでの
ブーメラ制作体験レッスン

上右：バーペンゲリー・ステート・スクールでの燕市のPR活動

下左：さよならパーティーでのダンディ村使節団とホストファミリー、市関係者

下右：国上寺本覚院にて書道体験

はじめに

燕市長 鈴木 力



今年度、燕市の国際交流事業は2つの事業を実施しました。

1つ目は、姉妹都市交流事業として、アメリカ合衆国ミシガン州ダンディ村から4人の中学生と引率者1人を受け入れました。

使節団は、この事業で、燕市内の事業所、工場、博物館等での見学や体験などを中心に、燕市の産業や歴史、伝統、日本の生活などを学びました。

彼らにとっては、初めての外国での生活であり、違いに戸惑うこともあったことと思いますが、ホスト・ファミリーや受入れ先の皆様の温かいお心遣いにより、燕市で充実した日々を過ごし、たくさんの思い出を作って帰国することができました。御協力をいただいた市民の皆様に、心から御礼申し上げます。

2つ目は、2年目を迎えたJack & Betty プロジェクトの海外派遣事業です。今年度は、英語スピーチコンテストを6月に実施して、そこで選出された12人の親善大使を8月にオーストラリアのブリスベンに派遣しました。

派遣先では、ホームステイをしながら現地の小学校に通い、オーストラリアの自然や環境、文化の違いを学びながら、地元の子どもたちとの友情をはぐくむことができました。また、燕市のPR活動を行うことで、燕市の産業や伝統技術などを知っていただき、相互交流を図ることができました。

この2つの事業は、いずれも地元の御支援と御理解があって実現することができております。事業に御協力をいただいている事業者、企業、市民の皆様に心から感謝申し上げます。

今後も、燕市の将来を担い、国際的に活躍できる人材の育成に力を注いでまいります。また、国際交流事業を通して、市民の皆様の国際理解が深まるとともに、魅力ある燕市を世界に発信することができるよう、一層の充実を図っていきたいと考えております。引き続き御理解と御協力をお願い申し上げます。

ごあいさつ

燕市教育長 上原 洋一



燕市教育委員会は、今年度の国際交流事業で新たなことを実施しました。

姉妹都市交流事業では、昨年度の派遣に引き続いて、今年度は受け入れる側となりました。また、平成25年度から始まったJack & Bettyプロジェクトは、親善大使の派遣時期を8月にしました。

姉妹都市交流事業では、例年よりも1人多い5人の使節団が訪問することとなりましたが、市民のボランティアやJack & Betty教室の参加児童生徒で希望してくださった方から、ホスト・ファミリーになることを快く引き受けていただきました。そのため、家庭での生活がとても楽しく、充実していたと聞いております。

初めての海外旅行で、言葉も生活習慣も大きく異なる環境でありながら、使節団が笑顔で過ごすことができたのは、受け入れてくださった御家庭や子どもたちが優しく温かく接してくださったからだと思います。今回の使節団の滞在が、皆様にとってもアメリカの文化や生活を知る良い機会となれば幸いです。

もう1つの事業である親善大使の派遣先は、オーストラリアのブリスベンでした。2回目となる派遣でしたが、行き先も時期も全く違うため、現地での生活には適応力が求められたことと思います。現地では、様々な変更や気候、環境などの違いに柔軟に対応しながら、ホスト・ファミリーや地元の子どもたちとの交流を通して英語の力を伸ばし、たくさんのことを学ぶことができました。

また、燕市親善大使としての役割であるPR活動にも一生懸命に取り組み、発表後はたくさんの方々から賞賛していただきました。このPR活動を通して、燕市のことを誇りに思い、郷土愛をはぐくむことができたと思います。

親善大使には、これからも燕市の代表であったことを忘れず、目標を高くもち、自分の経験を多くの人たちに伝えながら、学校や地域でリーダーとして活躍してくれることを期待しております。

最後になりますが、この国際交流事業に御協力くださった事業者の皆様、ホスト・ファミリーの皆様、保護者、地域の皆様に心から感謝申し上げます。今後も、事業の充実と発展を推進してまいりますので、皆様の御理解と御支援をいただきますようお願い申し上げます。

平成26年度 燕市姉妹都市交流事業報告書 目次

燕市姉妹都市交流事業日程 5

ダンディ使節団員感想、ホストファミリー報告 6

ダンディ使節団体験活動協力者の感想 16



初めての書道体験（国上寺本覚院）



鉋起銅器の制作過程を見学（燕市産業史料館）



ダイヤモンド電子工場見学
（新潟ダイヤモンド電子株式会社）



歓迎会で日本舞踊を見学、体験
（新潟ダイヤモンド電子株式会社）

平成26年度 燕市姉妹都市交流事業日程

月	日	曜日	時 間	日 程
7	14	月	19:00 ～ 20:00	ダンディ使節団ホストファミリー説明会（燕市役所 会議室101）
7	18	金	15:30	ダンディ使節団出発 デトロイト・メトロポリタン国際空港出発
7	19	土	17:35	新東京国際空港到着→東京駅→東京都内泊
7	20	日	8:24	東京駅出発
			10:23	燕三条駅到着
			11:00	昼食・休憩
			13:00	ホストファミリーと対面（燕三条地場産業振興センター 1階）
			PM	ホストファミリーと過ごす（飛燕夏まつり・分水まつり）
7	21	月	終日	ホストファミリーと過ごす
7	22	火	9:00	燕市役所集合
			9:15 ～ 10:50	日本語のレッスン
			11:00 ～ 11:50	燕市の紹介
			13:30 ～ 14:30	新潟ダイヤモンド電子工場見学
			14:45 ～ 15:50	燕市役所見学
			16:00 ～ 16:20	表敬訪問：市長
			16:30 ～ 17:30	新潟ダイヤモンド電子工場見学
			17:30 ～ 19:00	新潟ダイヤモンド電子主催歓迎会
7	23	水	8:30	燕市役所集合
			9:00 ～ 11:00	分水小学校訪問
			12:00 ～ 13:30	燕市国際交流協会表敬訪問・昼食・休憩
			14:00 ～ 17:00	燕中等教育学校訪問
			17:00	燕市役所解散
7	24	木	8:30	燕市役所集合
			9:30 ～ 13:30	ふれあいパーク「久賀美」（料理体験：米粉シフォンケーキ、折り紙体験）
			14:00 ～ 15:00	長善館史料館見学
			15:15 ～ 16:30	磨き屋一番館（磨き体験）
			16:45	燕市役所解散
7	25	金	8:30	燕市役所集合
			9:00 ～ 10:30	書道・仏道体験（国上山本覚院）
			11:00 ～ 12:00	信濃川大河津資料館見学
			13:00 ～ 14:30	産業史料館見学
			14:45 ～ 16:30	茶道体験
			16:45	燕市役所解散
			19:00 ～ 21:10	ホストファミリーと過ごす（希望者は吉田まつり民謡流し参加）
7	26	土	9:00 ～ 12:00	玉川堂見学・鉋起銅器制作体験
			PM	ホストファミリーと過ごす（吉田まつり）
7	27	日	AM ～ PM	ホストファミリーと過ごす
			16:00 ～ 17:30	お別れ会（吉田産業会館 2階 第1、第2研修室）
			19:30 ～ 21:00	ホストファミリーと過ごす（希望者は燕市夏祭り花火大会見学）
7	28	月	8:30	燕市役所集合
			10:00 ～ 13:00	長岡市悠久山公園
			13:00 ～ 15:00	リバーサイド千秋で買い物
			16:00	燕市役所解散
7	29	火	8:10	燕三条駅2階改札口前広場集合
			8:35	燕三条駅出発→東京駅→成田空港駅
			13:00	新東京国際空港到着
			15:05	新東京国際空港出発
			13:59	デトロイト空港到着

1. 燕市での滞在で良かったことは？

私のホスト・ファミリーは、この滞在を本当に楽しいものにして下さいました。出会うことができて良かったです。私が喜べるように、たくさんのことをしてくださいました。

彼らのお心遣いに感謝しています。

他にも、学校に訪問したり、買い物に行ったりして、楽しかったです。

2 滞在について改善してほしいことはありますか？

博物館の訪問が、少し多かったです。説明されていることも難しかったので、しっかり理解できているか不安でした。

3 この滞を通して考え方や印象が変わりましたか？

変わりました。外国での滞在がどのようなものか、全く考えることができませんでした。しかし、滞在してみると、表面上では2つの国の違いがたくさんありましたが、内面的には共通していることもあることに気がきました。

4 姉妹都市交流についてのコメントを述べてください。

とても素晴らしいことだと思います。この経験は、人生に一度の機会でした。ありがとうございました。



アビゲイル・ホーキーさん ホスト・ファミリー 宮島智子さん

1 活動内容

- 甚平を着てお祭りに出かけた。
- ショッピング・モールで買い物をした。
- 自宅で流しそうめんやバーベキューをした。
- 海辺で花火をした。
- トランプ、UNO、ミサンガ作りなどを楽しんだ。
- 外食、ボウリングやカラオケに出かけた。
- 家族の記念写真と一緒に入ってもらった。
- Wi-Fiをつないで米国にTV電話をかけた。

<心がけたこと>

どのようなことでも、話しかけるように努めました。特に、子どもたちには、Abbyが一人にしてほしいと言うまでは、一緒にいて楽しむように伝えました。

2 感想

我が家はまともな英会話をできる者が一人もいないという状況で申込みましたので、Abbyが不安に思っているのではと心配でした。翻訳アプリやジェスチャーで、何とかコミュニケーションをとることができました。

Abbyは、とても優しい女の子でサッパリとした性格だったので、どうしても意思の疎通ができない場面でも、“It’s OK.”と笑顔でいてくれたのが嬉しかったです。

食事もしろいろな体験も、とりあえずトライしてくれたので、大変嬉しく思いました。簡単な日本語を覚えようと一生懸命に聞き、書いていて感心しました。

Abbyの滞在中はTVをつけることがほとんどなく、彼女を含めてゲームや会話をたくさんしました。特に、使節団の子どもの名前を漢字で表そうとしたときに、「愛」と「恋」をどう表現するかということで四苦八苦しながらも、大変楽しく過ごすことができました。ありがとうございました。



ダンディ使節団員感想

Addison Dusseau

1 燕市の滞在で良かったことは？

全部良かったです。この訪問をして良かったし、出会った人たちも親切でした。特に、料理のレッスンが楽しかったです。一生付き合える親友が4人できました。

2 滞在について改善してほしいことはありますか？

何也没有什么。全て良かったし、やりたくないと思うこともありませんでした。

3 この滞在を通して考え方や印象が変わりましたか？

2つの国の文化の違いが、とてもはっきりと分かりました。私は、絶対にもっと椅子を使うつもりです。

4 姉妹都市交流についてのコメントを述べてください。

素晴らしい旅行でした。日本に来ることがあるなら、できることは何でもやってみるのがいいと思います。



ホストファミリー活動報告

アディソン・デュソーさん ホスト・ファミリー
袖山智子さん

1 活動内容

7/20(日)	飛燕夏祭り参加
7/21(月・祝)	弥彦神社及び弥彦山見学
7/25(金)	吉田祭り参加
7/26(土)	マリンピア日本海及び朱鷺メッセ見学
7/27(日)	しろね大凧と歴史の館見学及び凧作り体験
その他	帰宅後は剣玉遊び、DVD視聴、花火、ゲーム など。

2 感想

Addisonは、大変礼儀正しい少年で、私たち家族のつたない英語を一生懸命に聞いてくれたり、見よう見まねで日本の暮らしに馴染もうとする姿に感心しました。これからホームステイに行く娘にとっては、とても良いお手本になりました。

また、今まで海外に関心が薄かった息子も視野が広がったようで、今後は楽しみです。



1 燕市の滞在で良かったことは？

- 皆さんに会えたこと。
- 新しい体験ができたこと。
- 思い出を作ることができたこと。

2 滞在について改善してほしいことはありますか？

全てが素晴らしかったです。何も変える必要はないと思います。

3 この滞在を通して考え方や印象が変わりましたか？

不安に思うことも当たり前だし、それでもいろいろなことができるということを学びました。

4 姉妹都市交流についてのコメントを述べてください。

この交流が、将来も続くことを希望します。



ローレン・コリーさん ホスト・ファミリー
箱田果秀さん（燕）

1 活動内容

- 浴衣を着て分水祭りに参加した。
- バーベキューをして焼きそばを食べた。
- 生け花を体験した。
- 部活動（バレーボール）を見学した。
- 燕大花火大会に行った。
- マリンピア日本海を訪問した。
- お揃いのプレスレットを買った。

2 感想

留学生を受け入れたことにより、自分の知らなかった新しい世界を見ることができて、大変良い経験をすることができました。言語や文化の違いはありますが、相手に伝えたいと一生懸命になれば、それが可能になることが分かりました。

ローレンはとても優秀で、大人で、吸収することがたくさんあり、私や家族を変えるきっかけとなってくれました。

これからも関係を途切れさせることなく、いつかDundeeを訪問したいと思います。



ダンディ使節団員感想

Olivia Ott

1 燕市の滞在で良かったことは？

新しいことを学ぶことや、新しい食べ物を食べてみるのが良かったです。日中にいろいろなことができたので楽しかったです。

2 滞在について改善してほしいことはありますか？

日中にたくさんすることがあったので、もう少し自由時間があると良かったです。

3 この滞を通して考え方や印象が変わりましたか？

同じことをするにしても、全く違っているなと思いました。

4 姉妹都市交流についてのコメントを述べてください。

10代の学生にはとても良いことなので、多くの人たちがこのようなことを経験するべきだと思います。

ダンディ使節団員感想

Anto Ritsema

1 燕市の滞在で良かったことは？

全てが良かったです。本当に楽しかったです。この経験は一生忘れません。燕市はとても美しい街で、とても素晴らしいです。

ホスト・ファミリーは、私が家庭で穏やかな気持ちで過ごせるようにしてくれたので、本当の家族のようでした。

どの体験も素晴らしかったので、もっと長く滞在できればと思いました。

2 滞在について改善してほしいことはありますか？

日本のことは、何も変えてほしくありません。本当に素晴らしいことばかりです。強いて言えば、日本に来る前に日本語をもう少し勉強しておけばよかったと思います。

それ以外は、とても良かったです。

3 この滞を通して考え方や印象が変わりましたか？

この滞在中で、大きく変わりました。この滞在中で、自分が新しいことをやってみるのに抵抗がないことに気がきました。考え方が変わりました。

4 姉妹都市交流についてのコメントを述べてください。

何もかもが、本当に素晴らしかったです。感謝します。ありがとうございました。

ホストファミリー活動報告

オリビア・オットさん、アント・リツマさん ホスト・ファミリー
大滝由華さん

1 活動内容

- UNO、Wii、パズル、お絵かき、剣玉、竹馬などをした。
- マリンピア日本海、こどもの森、まんが情報館、寺泊魚市場、デパートなどに行った。
- 飛燕夏祭り、吉田まつり、燕大花火大会に参加した。

2 感想

初めてホスト・ファミリーを引き受けました。最初は戸惑うことがたくさんありましたが、子ども同士が遊びやゲームを通してすぐに仲良しになりました。

できるだけ日本でしか体験できないことをたくさんしてもらいたいと思い、昔の遊びや流しそうめんなどをやってみました。アメリカの子どもたちも、楽しく過ごせたと思います。

英会話はできませんが、子どもたちは身振り手振りで頑張りました。今回のことを通して、一番下の子どもも英語に興味をもってくれました。今後も機会があれば、受け入れたいと思います。そのときには、日本の良さや燕市の素晴らしさを英語で説明することができるように家族と一緒に頑張りたいと思います。



1 燕市の滞在で良かったことは？

私のホスト・ファミリーは、とても素晴らしかったです。最初の数日間は、使節団員のホスト・ファミリーとのコミュニケーションをとるときに、いろいろと手伝ってくれました。

燕市の歴史を学んだり、スプーン磨きや鎚起銅器などの制作を体験したりするのは、とても楽しかったです。常に私たちの必要なことができるように取り計らっていただきました。

2 滞在について改善してほしいことはありますか？

飛行機の到着日にもよりますが、到着した日に歓迎会をしていただき、そこでホスト・ファミリーと対面して各家庭に行くようにできればと思いました。

加えて、お別れ会でのゲームのように、何かを一緒に楽しんでから、ホスト・ファミリーと行動するようにできれば良かったです。出会ってからすぐにホスト・ファミリーと行動するのは、使節団員にとっては難しかったかもしれません。もう少し時間をとって、お互いによく理解し合ってから、別々に行動するようにしたかったです。

また、到着した日に、日本語のレッスンがあると助かります。

3 この滞在を通して考え方や印象が変わりましたか？

日本の文化は、とても面白いです。日本の家庭生活は、アメリカの家庭生活と似ていました。次回の使節団員には、来日前にもっと日本語を勉強するようにしておくの良いと思いました。

4 姉妹都市交流についてのコメントを述べてください。

これは、とても素晴らしい事業であると思います。この事業を実施してくださる燕市と株式会社ダイヤモンド電子様には、本当に感謝しております。

この旅行を忘れることはありません。来年の夏に、日本の生徒を迎えることを楽しみにしています。

ジェニー・オットさん ホスト・ファミリー
七里圭子さん

1 活動内容

- 7/20 飛燕夏祭り ダンスフェスティバル見学
- 7/21 新潟市で買い物、朱鷺メッセ見学
- 7/26 日本そばのランチ、プリクラ、100円ショップ、白玉のおやつ作り
- 7/27 弥彦神社訪問、買い物、燕大花火大会

2 感想

引率者のホスト・ファミリーでしたので、ホームシックになった団員のお宅に伺うこともありましたが、そのため、きちんと日本を観光していただくようなことはできなかったかもしれませんが、ありのままの日本の家庭生活を見ていただけたと思います。

日本の夏の湿度や時差などから、おそらく疲れているのではと思い、「してあげたい」気持ちを抑えつつ、お昼寝や早めの夕食にして、ベッドで休む時間を多く取りました。初めてホスト・ファミリーを引き受けた方々にも、事前にお伝えすれば良かったと感じました。

ホスト・ファミリー同士も非常に仲良くさせていただき、随時連絡を取り合うことができ、お互いに心強く、使節団の皆さんにも多少はプラスになったのではと思います。



ダンディ使節団体験活動協力者の感想

書道体験 澁谷隆阿 様（国上山 本覚院住職）

今年も、ダンディ村の子どもが5人、我が山寺にやって来ました。古びた建物を眺めて珍しそうにしていました。

日本の文化に触れてもらおうということで、お習字を指導しました。「平和」の二文字を書いてもらいました。「ピース」は、世界の合言葉。筆など持ったことがないはずなのに、それなりに上手く書けました。筆順はかなりいい加減ですが、それもお愛嬌。

座禅は少しつらそうでしたが、異文化に触れ、楽しそうに過ごして帰りました。良い思い出になってくれれば幸いです。



磨き体験 高橋千春 様（燕市研磨振興協同組合理事長）

最初は少し戸惑い気味で、硬い表情でした。研磨体験終了時には、にこやかな表情になっていました。

研磨というものがあまりに珍しいからなのか分かりませんが、日本人の方がリアクションは激しいのではと感じました。

今までも数回、アメリカ人が研磨体験をしていますが、やはり日本人の方が楽しそうに、かつ丁寧に研磨体験をします。ものづくりの国「ニッポン」ということなのかもしれませんね。



料理体験 鴨井智恵子 様（ふれあいパーク久賀美）

7月24日、ダンディ村使節団の子ども達と楽しくクッキング教室を行いました。

最初に米粉シフォンケーキを作り、焼き上がりを待つ時間に、折り紙でひまわりと桜の花を折りました。シフォンケーキはふっくらと焼きあがり、そのまま持ち帰りホームステイ先の方々と一緒に食べて頂きました。折り紙はとても難しそうでしたが、なんとか完成しました。

短い時間でしたが、ダンディ村の子ども達の思い出作りにお手伝いさせていただき、私共も楽しい時間を過ごすことができました。



茶道体験



玉川堂鋳起銅器制作体験



長善館史料館見学

海外派遣事業ブリスベン親善大使報告書 目次

海外派遣事業（オーストラリア・ブリスベン市）日程 19

海外派遣事業における燕市PR活動 21

海外派遣事業ブリスベン親善大使報告 22

思いが変わった海外派遣	吉田南小学校 6 年	細貝茅可
初めての海外	分水小学校 6 年	箱田有咲
My Host Family	小池中学校 1 年	袖山 彩
This experience is my treasure.	燕北中学校 2 年	永井 匠
My life memory	吉田中学校 3 年	宮下美咲
初めてのホームステイ	分水中学校 2 年	下村咲花
My summer vacation in Australia	燕中等教育学校 2 年	粉川千慧
驚き、出会い、楽しさをありがとう	燕中等教育学校 2 年	古田理乃
一期一会	燕中等教育学校 3 年	内山愛里
ファミリーと過ごした楽しい時間	燕中等教育学校 3 年	白椿雅唯
人の温かさ	燕中等教育学校 3 年	高井優香
One for all, all for one.	燕中等教育学校 3 年	平澤澄果

海外派遣事業ブリスベン親善大使アンケート集計結果 58



受入校である Burpengary State School で燕市のPR活動を行った後の関係者と一緒に

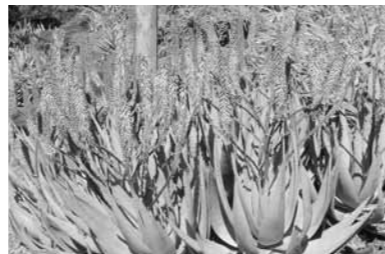


ブリスベン市視察の際に利用した水上バス乗り場で記念撮影

海外派遣事業（オーストラリア・ブリスベン市）日程

月 日	日 程	
8月17日（日）	10:00 燕三条駅集合 10:20 出発式 10:51 燕三条駅出発 12:44 東京駅到着 13:04 東京駅出発 14:00 羽田空港到着 17:05 羽田空港出発 23:05 シンガポール空港（経由地）到着	（機内泊）
8月18日（月）	00:45 シンガポール空港（経由地）出発 10:35 ブリスベン空港到着 11:30 ブリスベン市内視察 ① Mt.Coot-tha Summit Lookout ② Brisbane Botanic Gardens Mt. Coot-tha ③ Lone Pine Koala Sanctuary 17:00 バーベンゲリー市到着 ホスト・ファミリーと対面	（ホームステイ）
8月19日（火）	08:50 登校、健康観察、日程確認 09:00 英会話クラス① あいさつ、自己紹介 10:50 バディ・ステューデントと対面、交流、昼食 11:30 英会話クラス② オーストラリアの気候、地理 13:30 バディ・ステューデントとの交流 14:00 文化体験学習① アボリジニ・アートについて ブーメラン制作	（ホームステイ）
8月20日（水）	08:50 登校、健康観察、日程確認 09:00 英会話クラス③ オーストラリアの動植物、自然 10:50 バディ・ステューデントと交流、昼食 11:30 英会話クラス④ スピーチ、買い物の英会話 13:30 バディ・ステューデントとの交流 14:00 文化体験学習② アボリジニの歴史、文化、風習、言語について	（ホームステイ）
8月21日（木）	08:50 登校、健康観察、日程確認 09:00 Burpengary State School出発 10:15 Brisbane City Office到着 10:20 Brisbane City Office見学 11:45 Riverlife Adventure Centre訪問 アボリジニ・ダンス、楽器演奏見学 燕市PR活動① 15:00 在ブリスベン日本国総領事館表敬訪問 16:00 ブリスベン市出発 17:15 バーベンゲリー市到着	（ホームステイ）

8月22日（金）	08:50 登校、健康観察、日程確認 09:00 英会話クラス⑤ 燕市PR活動の練習 10:00 ブック・ウィークの低学年パレード（集会）に参加 11:00 高学年の集会に参加 燕市PR活動② 12:00 バディ・ステューデントとの交流、昼食 13:00 英会話クラス⑥ リスニング 14:00 クッキングのレッスンに参加	（ホームステイ）
8月23日（土）	終日ホスト・ファミリーと過ごす。	（ホームステイ）
8月24日（日）	終日ホスト・ファミリーと過ごす。	（ホームステイ）
8月25日（月）	08:50 登校、健康観察、日程確認 09:00 英会話クラス⑦ リスニング 10:50 バディ・ステューデントとの交流、昼食 11:30 英会話クラス⑧ アボリジニの歌、神話 13:30 バディ・ステューデントとの交流 14:00 日本語クラスでの交流	（ホームステイ）
8月26日（火）	08:50 登校、健康観察、日程確認 09:00 英会話クラス⑨ ホスト・ファミリーへの感謝の手紙 10:50 バディ・ステューデントとの交流、昼食 11:30 英会話クラス⑩ さよならパーティーの打合せ 13:30 バディ・ステューデントとの交流 14:00 学校の授業に参加 15:00 さよならパーティーの出し物の練習 17:30 さよならパーティー	（ホームステイ）
8月27日（水）	08:45 学校集合、健康観察 09:00 バーペンゲリー市出発 10:00 Opal Aged Care Centreで入所者の皆さんと交流 燕市のPR活動③ 12:00 ブリスベン空港到着 14:30 ブリスベン空港出発 20:50 シンガポール空港（経由地）到着 22:30 シンガポール空港（経由地）出発	（機内泊）
8月28日（木）	06:30 羽田空港到着 08:06 羽田空港出発 08:30 東京駅到着 09:28 東京駅出発 11:15 燕三条駅到着 11:30 到着式	



海外派遣事業における燕市PR活動

1 PR活動の内容

（1）プレゼンテーション

- ① 燕市の自然・地理・交通・農業
- ② 燕市の学校教育
- ③ 燕市の金属加工業
- ④ 燕市の観光・名所・名産品

（2）文化紹介

- ① 日本の伝統的な遊びの紹介
- ② 日本の道具の使い方の紹介

（3）表敬訪問

- ① ブリスベン市庁舎
- ② 在ブリスベン日本国総領事館



Riverside Adventure CentreでのPR活動



Burpengary State SchoolでのPR活動

2 場所・期日

No.	場 所	期 日
(1)	Riverside Adventure Centre	8 / 21（木）
(2)	ブリスベン市庁舎	8 / 21（木）
(3)	在ブリスベン日本国総領事館	8 / 21（木）
(4)	Burpengary State School	8 / 22（金）
(5)	Burpengary State School (Farewell Party)	8 / 26（火）
(6)	Opal Aged Care Centre	8 / 27（水）



ブリスベン市庁舎訪問

3 担当

	PR活動の内容	文 化 紹 介	メ ン バ ー		
(1)	燕市の紹介・農業	①だるまさんが転んだ ②鬼ごっこ ③菜箸を使った豆つかみ	高井優香	宮下美咲	永井 匠
(2)	燕市の学校・教育		平澤澄果	古田理乃	箱田有咲
(3)	燕市の金属加工業		内山愛里	粉川千慧	細貝茅可
(4)	燕市の観光・名所		白椿雅唯	下村咲花	袖山 彩



在ブリスベン日本国総領事館表敬訪問



学校での文化紹介（菜箸を使った豆つかみゲーム）



Opal Aged Care CentreでのPR活動

思いが変わった海外派遣

吉田南小学校 6年
細 貝 茅 可

私は、この事業への参加が初めての海外訪問でした。そのため、オーストラリアに行く前は、不安なことがたくさんありました。

しかし、日本に帰って来たときは、「楽しかった」「もっとホームステイをしたかった」などと思いました。その理由は、オーストラリアでの日々がとても楽しかったからだと思います。振り返ると、12日間にいろいろなことがありました。

まず、オーストラリアに到着した日に、コアラ保護区を訪問しました。そして、初めて生きているコアラを見ました。他にも、カンガルーやクロコダイル、コウモリ、羊、ヤギなどを見ました。カンガルーは放し飼いのような状態だったので、すぐ近くまで行って写真を撮ることができました。

その日の夕方に、全員がホスト・ファミリーと対面してそれぞれの家庭に行きました。私のホスト・ファミリーは、とても良い家族でした。ホスト・マザーのベリンダさんは、私たちのグループを担当する現地のコーディネーターで、英語の先生でもありました。私は、ベリンダ先生と一緒に登校して、彼女から英語を教えてもらいました。とても面白くて、親切な先生でした。ホスト・ファーザーのブレットさんは、仕事が忙しいようで、週末にしか会うことができませんでした。彼も、とても面白い人でした。ホスト・ブラザーのレイモンドさんは大学生で、普段は夜遅くまでアルバイトをしながら寮生活をしていました。彼もとても面白い人でした。ホスト・シスターのリアーニは、まだ8歳で小学生でした。彼女とは、毎晩遅くまで一緒に遊びました。疲れている日もありましたが、楽しかったです。私のホスト・ファミリーは、2匹の犬とカメを飼っていました。犬たちはとてもかわいらしくて、カメは噛む力がとても強そうでした。楽しい家族のおかげで、何の不安もなく過ごすことができました。週末にはブリスベン市に行って、有名なストーリー・ブリッジを見ることができました。それから、カンガルー・ポイントという場所からとても美しい夜景を見せてもらいました。夕食は、レイモンドさんが働いているレストランで食べました。パネルに触れて注文するスタイルのお店でした。料理がとてもおいしかったです。

この週末が終わると、時間がとても早く感じられて、あっという間に最終日になりました。ホスト・ファミリーと別れるのは、とてもつらかったです。

別れを告げて飛行機に乗ると、日本に帰りたいという気持ちが帰りたくないという思いに変わりました。本当に楽しく、思い出の多い海外派遣になりました。

Riverlife Adventure Centreでダンスを披露してくれた先住民の皆さんと記念撮影



ホスト・シスターとブリスベン市内のレストランで



目標の達成と自己評価など

1 海外派遣事業に親善大使として参加するにあたり、目標を決めましょう。

目標① 現地のの人々とたくさんしゃべる。そして、仲良くなる。

目標② 積極的に取り組む。現地での活動やホストファミリーとの会話など何事も積極的に!!

2 目標は達成できましたか?

目標①について 達成できました。ホストファミリーに燕市のことを紹介したり、自分の家族のことを話しました。ホストファミリーの人達もたくさん話しかけてくれて、仲良くなれました。

目標②について 少し達成できました。授業で先生を手伝う時進んで取り組みませんでした。でも、ホストファミリーとはたくさん遊んで、会話かできました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーと一緒にストーリーブリッジを見に行ったことです。ブリスベンは夜景がすごくきれいでした。特に、ストーリーブリッジはきれいにライトアップされていてたくさん写真を撮りました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

1日の生活リズムをくずさないようにがんばりたいです。1つのことにおまじ時間をかけず、物事をスムーズに行うようにしたいです。

5 海外派遣事業への参加を希望する人へのアドバイスを書いてください。

リスニングをしといたほうがいいと思います。海外ドラマなどを英語で見たりとするといいかもしれません。あと、行く前は不安があっても行ってしまえば、「もうやむしかない」と思ってなんとなんて帰るときには楽しかったと思えるようになっていきます。

初めての海外

分水小学校 6年
箱 田 有 咲

私には、この海外派遣での思い出が5つあります。
1つ目は、飛行機に乗ったことです。初めて乗ったので、とても心配でした。しかし、美しい景色を見ることができたので良かったです。

2つ目は、ホスト・ファミリーとバディ・ステューデントとの交流です。ホスト・ファミリーは、私にとっても親切にしてくれて、美味しい食事をたくさん作ってくれました。バディ・ステューデントは、学校で元気にあいさつして、毎日一緒に遊んでくれたのでうれしかったです。

3つ目は、観光です。日本では見ることができないものを、たくさん見ることができました。天気の良い日が多く、空がとてもきれいでした。ホスト・ファミリーが週末に連れて行ってくれた場所やブリスベンの街並みなども、思い出になりました。

4つ目は、英語の授業です。リスニングや短いスピーチなど、英語をたくさん使う機会がありました。先生の質問に答えて正解するとお菓子をもらうことができました。また、アボリジニのダンスや鳥の歌を教えてもらいました。日本の学校にも、このような授業があればいいと思いました。

5つ目は、食事です。私のホスト・ファミリーは、日本の味付けをしたものが多く、意外と食べるのに困りませんでした。しかし、時々食べられない味のお菓子や飲めないジュースなども出されました。そのようなときは、これも海外での貴重な体験だと思いながら、少しずつ食べたり飲んだりしました。バディ・ステューデントと食べたアイスクリームや、ホスト・ファミリーが作ってくれたお弁当などは、思い出すともう一度食べたいと思います。

初めてのオーストラリアへの旅行で、地図の上では近いと思っても、飛行機に乗って移動してみると、日本は遠い国だと改めて実感しました。オーストラリアは冬でも湿度が低く、最初の2、3日間は唇があれたりしましたが、1週間が過ぎるころにはすっかりその気候に慣れていました。もっと長く滞在することができれば、季節の変化にも適応しながら、英語の勉強をたくさんすることができると思いました。

夢のような日々を過ごすことができました。絶対に、またオーストラリアに行きたいです。



バディ・ステューデントとその友達と学校で記念撮影



Opal Aged Care Centreで入所者の方々と交流

目標の達成と自己評価など

1 海外派遣事業に親善大使として参加するにあたり、目標を決めましょう。

目標① 英語をたくさんしゃべって通じるように工夫をする！

目標② 友達を20人作る！

2 目標は達成できましたか？

目標①について たくさんしゃべって通じるようにしてもらってたくさん自分の意見や言いたい事が言えて良かったです。

目標②について 最初は英語で話す事が遊ぶ時に質問されるのがこわかったけどやさしくしてくれて20人作れました！

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーがいた事です。帰って来たらメルのおとりをずっとしているのを見て、行きたい人に出会えて良かったなと思ったのでホストファミリーとたくさん食事をしたことが思い出です。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

オーストラリアに1年ぐらいホームステイしたいです。そしてもっと英語力を身につけたいです。

5 海外派遣事業への参加を希望する人へのアドバイスを書いてください。

変更がたくさんありました。でも海外派遣の研修は、市のPRを英語で色んな人にプレゼンをする。派遣生の友達とも仲よく出来るのでとても楽しい活動です。ぜひ参加してみてください！

My Host Family

小池中学校 1年
袖 山 彩

8月17日、私は初めて日本を出ました。そして、翌日にオーストラリアに到着しました。ブリスベン市内の色とりどりの建物やたくさんのユーカリの木を見て、外国に来たのだということを実感しました。

オーストラリアでの初日は、ブリスベン市街を通過してMt. Coot-thaに行きました。それから、そのふもとの植物園を訪問しました。そこには、竹林がありました。午後は、Lone Pine Koala Sanctuaryに行きました。そこで、コアラを抱っこしました。このような視察をして、ますますオーストラリアが好きになりました。

夕方には、ホスト・ファミリーと対面しました。私の家族は3人でした。3人ともとても明るい性格で、たくさん話しかけてくれました。私は人見知りなので、初めて会う人に話しかけるのは苦手です。しかし、ホスト・ファミリーは私にいろいろと質問しました。例えば、学校から帰ると、「今日は何をしたの。」と聞いてくれました。また、キリスト教に関係した置物について説明してくれました。

初日は、話しかけてもらっても、なかなか彼らの英語を聞き取ることができませんでした。しかし、何回も聞き返すうちに、緊張がほぐれていきました。次第に英語も上達して、1週間後には1回で聞き取れることが多くなりました。英語で会話するのが楽しくて、毎日がとても短く感じられました。

10日間のホームステイは、すぐに終わりました。あっという間にさよならパーティーの日を迎え、私たちはそこで燕市に関するクイズをしました。そのときに、一番楽しそうに答えてくれていたのが、私のホスト・ファミリーでした。その夜、帰宅してから、私は彼らからプレゼントを受け取りました。それは、ウォンバットのぬいぐるみでした。私が動物を好きなことを知って、買ってくれたのだそうです。こんなにも素敵なホスト・ファミリーのおかげで、とても充実したホームステイになりました。

私は、この日々を絶対に忘れません。そして、いつかまた、オーストラリアに行って、ホスト・ファミリーに会いたいです。Thank you, my host family.



ホスト・ファミリーと自宅と一緒に



Lone Pine Koala Sanctuaryでコアラを抱っこして記念撮影

目標の達成と自己評価など

1 海外派遣事業に親善大使として参加するにあたり、目標を決めましょう。

- 目標① ブリスベンの人とたくさん話す。学校やホームステイ先の家庭などで、自分からたくさん話し、なるべく早く打ち解けるようにする。
- 目標② 英語力を上げること。ブリスベンの人々の話を聞いて、速い英語に慣れ、出発前よりも特にリスニングの力を高めて帰ってくる。

2 目標は達成できましたか？

- 目標①について 半分くらいできたと思います。ただ、もう少し早いうちから打ち解けられていたら良かったと思います。
- 目標②について けっこう達成できたと思います。初日は3回くらい聞き返していたけど、時間がたつにつれて理解するのが速くなりました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

最後の夜に、ホストファミリーがプレゼントをくれたことです。ホストファミリーは、たくさんのタイムダムと私がほしかたウォンバットのぬいぐるみくれました。ホストファミリーは、私が動物好きなのを知って買ってくれました。とてもうれしかったです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

これからも、外国の人とたくさん関わってみたいです。今よりも英語力をもっと高めて、辞書がなくても普通に会話ができるようになりたいです。

5 海外派遣事業への参加を希望する人へのアドバイスを書いてください。

最初から「自分にはできない」と思わずに、少しでも行きたい気持ちがあれば挑戦してみてください。

This experience is my treasure.

燕北中学校 2年
永 井 匠

僕は、これが初めての海外渡航でした。

親善大使に決定してからは、期待と不安と緊張の毎日でした。

ホームステイ先が決まった日の夜、ホスト・ファミリーから電子メールが届き、少し気分が楽になりました。しかし、出国当日は、やはり不安と緊張でいっぱいでした。10時間以上の空の旅を終えて、ブリスベン市に到着しました。その後、Mt. Coot-tha, Botanic Gardens, Lone Pine Koala Sanctuaryを訪問しました。その中では、Lone Pineでコアラを抱いて写真を撮ったことが印象に残っています。

そして、ようやくホスト・ファミリーと対面しました。とても緊張していましたが、"Hi, Takumi."と気軽に声をかけてくれたので、とても嬉しくて、思わず笑顔になりました。

翌日から、現地の学校に通いました。ホスト・マザーはランチ・ボックスを持たせてくれました。しかし、その日はまだ学校のスケジュールがよく分からなかったもので、食べ終えることができませんでした。帰宅して、ホスト・マザーにそのことを正直に話すと、"Thank you."という言葉をかけてくれました。僕は、このとき、「自分の英語が伝わった」という大きな喜びを感じました。そして、もっと英語を話したくなりました。

休日に、ホスト・ファミリーは僕にどこに行きたいかを尋ねました。週末は2日間とも雨だったので、楽しみにしていた釣りには行くことができませんでした。土曜日は、お土産を買うために買い物に行きました。そこでも、いろいろと英語を話しました。しかし、まだまだすぐには理解することができませんでした。それでも、僕は必死に単語で話しかけました。ジェスチャーを交えて何とか理解してもらえたときは、自信がもてました。ホスト・ファミリーが、僕のたどたどしい英語に一生懸命耳を傾けてくれたことも、とても嬉しかったです。

日曜日は、家族全員で「つばめっ子かるた」をしました。日本語を読んでも理解してもらえないので、工夫しながら何とか伝わるように頑張りました。家族も少しずつ分かるようになると、かるた取りが激しくなりました。「もう1回やろう」と言われたときは、楽しんでもらえたのだと思い、大きな達成感がありました。これらは、どれも日本ではできない経験でした。この経験は、僕にとって一生の宝物です。研修を終えた今、本当に参加して良かったです。もう一度、海外に行きたいと思います。

最後に、この機会を与えてくださった皆さんに感謝します。Thank you!



ホスト・ファミリーと一緒に自宅の前で



ホスト・ブラザーとその友達と一緒に自宅で

目標の達成と自己評価など

1 海外派遣事業に親善大使として参加するにあたり、目標を決めましょう。

目標① 英語力を向上させるためホストファミリーやバディ生徒と積極的にコミュニケーションをとる。

目標② 日本とオーストラリアの習慣の違いを学ぶ。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 基本的なお願ひなどはしっかりできたが、発展的な日常会話が出来なかった。でも、十分成果は出て、英語の力は確実に上がった。

目標②について 違いはたくさんあり、数えきれないほどだった。そして、日本にも似ているところもあって驚いた。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

自分の下手な英語に、しっかり耳を傾けてくれたことです。また、ホストファミリーとつばめっ子かるたをしたことです。日本語をそのまま読んでも伝わらないので工夫をし、ジェスチャーを交えてようやく伝えた時の達成感は今も心に刻まれています。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

もっと英語を勉強して、もう一回海外に行きたいです。その時は、買い物も一人で挑戦してみたいです。

5 海外派遣事業への参加を希望する人へのアドバイスを書いてください。

最初は何れでも不安になると思いますが、勇気をもって参加して下さい。糸色付に後悔はないです。そして、英語が上達したり、貴重な体験ができて、いいことづくめです。

My life memory

吉田中学校 3年
宮 下 美 咲

私は、この12日間とても貴重な体験をしました。私は英会話教室などに行っているわけではないので、学校の授業で英語を勉強していただけでした。そのため、親善大使に選ばれても、自信をもっていたわけではありませんでした。しかし、貴重な機会を与えられたのだから、少しでも自分の英語力を伸ばそうと思いました。

ブリスベン空港に到着したときは、当たり前ですが周囲の人たちが英語で話していました。「オーストラリアに来たのだ。」という実感と、「これからは英語で話さなければならない。絶対に自分に負けない。」という思いが強くなりました。

夕方には、ホスト・ファミリーと対面しました。その晩から、彼らにたくさん話しかけられて、答えるのにとても時間がかかりました。しかし、とりあえず理解してもらえたので安心しました。

私は、オーストラリアで2つの良い思い出を作ることができました。1つ目は、現地の学校でバディ・スチューデントと過ごしたことです。彼女たちは12歳で、私よりも年下なのに、単語を並べただけの私の英語を理解してくれたのには驚きました。彼女たちとたくさん話すことができたので、楽しかったです。

2つ目は、ホスト・ファミリーの長女とその友達と一緒に遊んだことです。友達の誕生会で、人生ゲームをしました。一緒に遊んでいるときは、4人の友達がいろいろと私に話しかけてくれて、私も仲間に入ることができたので、とても嬉しかったです。また、その中で2人が日本語にとっても興味をもっていました。どうしても私が話せないことがあると、日本語で話してくれることもありました。私は、オーストラリアで、とても良い友達をつくることができました。

海外に行く前は、不安なことがたくさんありましたが、それ以上にいろいろなことを学ぶことができました。またオーストラリアに行き、ホスト・ファミリーに会いたいです。そのときには、もっと英語で会話をできるようにしたいです。ホスト・ファミリーとバディ・スチューデントには、本当に感謝しています。The twelve days in Australia are my once-in-a-lifetime memories.



バディ・スチューデントと学校で



ホスト・スチューデントとその友達と一緒に誕生会で

目標の達成と自己評価など

1 海外派遣事業に親善大使として参加するにあたり、目標を決めましょう。

目標①

ホストファミリーとたくさん話して、日本に戻ってきた時に色々な英語を使えるようにする。

目標②

今の現在の英語力を高める。

2 目標は達成できましたか？

目標①について

オーストラリアに行く前より少しだけ成長できたと思います。学んだ英語を日本でも使えるように話したいです。

目標②について

高めるとはできませんでした。まだまだ努力したいと思います。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

休日にホストファミリーの長女とその友達4人で「人生ゲーム」をした。ことである。英語を理解できないときもあったのですが、友達4人がとてもおもしろかったのと、楽しい1日になりました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

10日間というのは、とても短くて、自分が思っていたほど成長して帰ってくる感じができませんでした。でも、ネイティブ発音と聞いたので、これから英語を勉強するとき、ネイティブ発音に近づけて音読したいです。

5 海外派遣事業への参加を希望する人へのアドバイスを書いてください。

・不安があると思いますが、とにかくテンションを上げて笑顔で下さい。
・最初からホストファミリーの方たちに伝わりやすいことばかりだと思います。でも、おきめずたくさん話しかけて下さい。伝わりやすいと楽しいです。

初めてのホームステイ

分水中学校 2年

下村 咲花

今回のオーストラリアでのホームステイは、一生忘れることのできないとても楽しい思い出になりました。

出発前も、私はとにかく楽しみで仕方ありませんでした。「自分の英語が通じるか」などという不安よりも、「絶対に通じるまで頑張る」という気持ちの方が大きかったです。私は、海外へ行くことも、ホームステイをすることも、飛行機に乗ることも、何もかもが初めてだったので、とてもワクワクしていました。

オーストラリアに到着して最初に会ったのが、ベリンダ先生とリンダ先生でした。2人の先生には、滞在中に本当にたくさんお世話になりました。リンダ先生は、私のホスト・マザーでした。家に行くときに、私はとても緊張していました。「一緒に生活していけるだろうか」という不安な気持ちでしたが、皆さんがとても優しくて親切だったので、過ごしやすかったです。

週末には、私を牧場や買い物に連れて行ってくれました。牧場へ行った日は大雨でしたが、全員一緒に1日中とても楽しく過ごしました。翌日は、リンダ先生と買い物に行きました。いろいろなお店を見ることができて、楽しかったです。

オーストラリアの学校での時間も、とても充実していました。バディ・ステューデントは、私にゆっくりと話してくれたり、一生懸命に話を聞こうとしてくれたりしたので、本当に嬉しかったです。

燕市の親善大使として、PR活動をしたことも貴重な経験でした。PR活動以外にも、ホスト・ファミリーに日本や燕市のことを伝えることができました。

私は、海外派遣を通して、自分の英語力がまだまだ足りないということを実感しました。これから、もっと英語を勉強したいと思います。もっと英語力が身に付いたら、またオーストラリアに行きたいです。

たくさんの方のご協力があって、海外派遣に参加することができました。このような素晴らしい機会を与えてくださって、ありがとうございました。



Lone Pine Koala Sanctuaryのカンガルー広場にて



Lone Pine Koala Sanctuaryの入口で親善大使全員と一緒に

目標の達成と自己評価など

1 海外派遣事業に親善大使として参加するにあたり、目標を決めましょう。

目標① 伝えたいことをちゃんと伝えられるようにすることです。

目標② 親善大使として燕市のことをオーストラリアの人たちに伝え、オーストラリアのことも学んでいくことです。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 伝えたいことを上手く伝えられなかったときもあったけど、どうやら伝えられるかを考えていろいろな工夫ができました。

目標②について 燕市のことを自分で頑張って伝えることができました。オーストラリアのこともちゃんと学んでいくことができました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

オーストラリアを離れる前日のさよならパーティーです。プレゼンテーションをしたり、みんなでご飯を食べたり、本当に楽しい時間でした。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

この12日間の経験を生かしていけるように、もっと英語を勉強して、またオーストラリアに行きたいです。

5 海外派遣事業への参加を希望する人へのアドバイスを書いてください。

上手く伝えたいことが伝わらなくても、相手はずっと聞こうとしてくれると思うので、あきらめずに最後まで伝えようと頑張れば、必ず伝わります。

My summer vacation in Australia

燕中等教育学校 2年
粉 川 千 慧

私は、今回の海外派遣を通して、学んだことがたくさんあります。

まず1つ目は、オーストラリアの生活と食事です。私のホスト・ファミリーは、5人家族でした。毎朝、トーストにベジマイトという発酵したペーストを付けて食べます。味は、味噌のようなのですが、とても驚きました。

もう一つ驚いたことは、家族の中で、室内で靴を履いている人と履いていない人がいたことでした。私は、靴を履いて過ごすことにしました。雨の日に、濡れた靴のままで家に入るのは違和感がありましたが、何日か経過するうちに慣れました。このように、オーストラリアの生活に慣れてくると、最初は不安だったホームステイが楽しくなってきました。

週末には、買い物やゲームパークに連れて行ってもらいました。私も、つばめっ子かるたをしながら、燕市のことを説明することができました。私のホスト・ファミリーは、スポーツが好きなので、一緒に高跳びの練習に参加しました。私もスポーツが好きなので、一緒に楽しむことができました。練習中の会話ができたので、家族との仲が深まったと思いました。

2つ目は、アボリジニの人々についてです。私たちは、文化体験学習で、ブーメランを作ったり、歌やアートについて教えてもらったりしました。また、ブリスベン市を訪問したときには、アボリジニのダンスを見ることができました。アボリジニの皆さんは、狩りをする様子やカンガルーの動作などをダンスで表現してくれました。私は、これらのダンスを見たことが、とても印象に残っています。私たちもその場で簡単な動きを覚えてもらい、一緒に踊りました。このような学習を通して、自分でもアボリジニについて調べてみようと思いました。

私は、この12日間の研修で、日本では分からなかったことをいろいろと学ぶことができました。オーストラリアは、素晴らしい所でした。まだまだ私が知らないことが、たくさんあると思います。次に行くときには、もっと英語力を高めて、コミュニケーションをとりながら、オーストラリアについて学びたいです。



オーストラリア最後の日にパディ・ステューデントと一緒に



外国でお祝いしてもらった誕生日会で友達と

目標の達成と自己評価など

1 海外派遣事業に親善大使として参加するにあたり、目標を決めましょう。

目標① 積極的に動き、親善大使として、燕市をPRできるようにスピーチを完璧に読む。

目標② オーストラリアの人々と交流を深める。そしてオーストラリアの歴史も学び日本との関係を知る。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 授業中に手を挙げる事が出来て良かったと思う。現地の学校で読んだときの終わった後の拍手が盛大だったので全体的に成功して、自分も一度も間違わなかったのが良かった。

目標②について ホストファミリーと会話がたくさん出来た。今回アボリジニの人々について知ることが出来て興味を持ったので調べてみたいと思った。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

私の最も思い出に残ったことは、ブーメラン作りやアボリジナルアートなどのアボリジニの人々についての授業です。ブーメランに描かれている絵に一つ一つ意味があるというのを初めて知りました。そして、歴史の長さに驚きました。私は、アボリジニの人々についてもっと知りたいと思いました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

今回、自分が言いたいことが英語で言えないときが何回もあり悔しかったです。なので、英語力をもっと高められるように普段の授業を大事にし頑張りたいです。

5 海外派遣事業への参加を希望する人へのアドバイスを書いてください。

私は、初めて海外に行ったので、最初は不安もありましたがホストファミリーや現地の方々が優しく良い人でとても良い思い出になりました。今しか出来ない経験なのでチャレンジしてほしい。

驚き、出会い、楽しさをありがとう

燕中等教育学校 2年

古田 理 乃

私にとって、この12日間は、たくさんの驚き、出会い、楽しさを体験することができた日々でした。出発するときの新幹線や飛行機の中では不安でしたが、オーストラリアに到着してからは、そのようなことを感じる暇がないくらいに楽しい毎日でした。

オーストラリアで最も感じたことは驚きでした。季節は冬でしたが、春が近付いていることは聞いていました。しかし、現地では、空の様子や太陽が夏を思わせるくらいに天気が良く、新潟の冬とは全然違っていました。道路の信号や急な坂道にも、日本との違いを感じました。

ホスト・ファミリーと対面したときに、ホスト・マザーが抱きしめて歓迎してくれました。"How are you today?"と聞かれたので、さっきまでは疲れて眠っていたのに、元気に"I'm very happy."と答えました。家に向かう途中も、私にたくさん質問してくれました。住宅街を離れて、どんどん山の中に入っていくようで不安になりました。家に到着すると、その理由が分かりました。私のホスト・ファミリーは、牧場を経営していました。そのため、住宅街から離れていたのです。途中で、"Look, Rino."と言われたので外を見ると、野生のカンガルーがいました。一生の思い出になりました。

翌日から、学校に通いました。バディ・スチューデントとも対面しました。ホームステイの次に不安なことでしたが、ホスト・ファミリーの子どもさんがバディ・スチューデントでもあったので良かったです。

学校では、英会話やアボリジニのことを勉強しました。先生方は、アボリジニについてとても熱心に教えてくださいました。英語で説明されたのですが、とても分かりやすかったです。

楽しい時間はあっという間に過ぎて、帰国の日になりました。ホスト・ファミリーやバディ・スチューデントに見送られて、オーストラリアを離れました。

オーストラリアに行って、英語の楽しさや大切さを実感しました。私は、将来は人と直接関わる仕事をしたいと思っていましたが、英語を使う仕事もしてみたいとも思いました。そのために、漫然と勉強するのではなく、身に付くまで勉強したいです。



ホスト・ファミリーと一緒に記念撮影



バディ・スチューデントと学校と一緒に

目標の達成と自己評価など

1 海外派遣事業に親善大使として参加するにあたり、目標を決めましょう。

目標① プレゼンテーションを大成功させ、たくさんの人たちに、燕市のことについて教えられる。

目標② 自分から積極的に話しかけて、英語力、オーストラリアの文化を学んでくる。

2 目標は達成できましたか？

目標①について プレゼンテーションの場所が変えたりはしなかった、ハチハチとしゃべることができた。燕市について質問されたことに対して、だいたいは答えることができた。

目標②について アボリジニの生活のしかた、踊りについて学ぶことができた。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

1日目に行った Lone Pine 動物園であつた日本の動物園は、どこにも居るような動物ばかりであつた。この動物園は、オーストラリアならではの動物が、たくさん居た。私たちの班が羊の写真をとりに行った時、いじわるな鳥に追いかけられました。それを見ていたオーストラリアの方が私たちを見て、"run!"と叫んでいておもしろかったです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

この12日間で、英語の必要性を感じました。これからは、どんどん英語レベルを上げていきたいと思つています。

5 海外派遣事業への参加を希望する人へのアドバイスを書いてください。

この旅を楽しめるかは、自分の気持ち次第だと思います。楽しもう!という気持ちが必要だと思います。

一期一会

燕中等教育学校 3年

内山 愛里

私は、親善大使として海外派遣に参加する前、不安と緊張が積み重なり、ホスト・ファミリーときちんと意思疎通ができるかがとても心配でした。そのため、ホスト・ファミリーからメールをもらったときは、とても嬉しかったです。出発する前日にもメールでやり取りしたので、私の緊張と不安は少し和らぎました。

ブリスベン市の視察を終えた初日の夕方に、ホスト・ファミリーが迎えに来てくれました。とても親しみやすく優しくて、理想的な家族でした。ホスト・シスターと年齢も近かったので、すぐに仲良くなりました。

現地の学校でも、小学生のバディ・ステューデントと仲良くなりました。オーストラリアの学校で驚いたことは、通路が外にあることです。ブリスベン市は冬でも雪が降らず温暖なので、昼食は屋外で食べることが多かったです。お弁当は、日本のそれとは違ってサイズが大きく、リンゴが1個そのまま入っていたり、小袋の中にサンドウィッチが入っていたり、スナックを持たされたので驚きました。昼食後、私はバディ・ステューデントと鬼ごっこをすることになりました。日本での鬼の決め方や遊び方と同じではなかったので、文化的な違いを感じました。

ホスト・ファミリーの家でも、オーストラリアと日本の生活の違いを見付けました。例えば、オーストラリアでは、靴を履いたまま家に入ります。また、家の中では、入ってもよいときは部屋のドアを開けておき、入ってほしくないときは閉めておくというルールがあります。日本では、そのようなことはありませんので、「郷に入っては郷に従え」という諺を思い出して生活しました。

週末には、ホスト・ファミリーと一緒にオーストラリア動物園を訪問しました。そこにはたくさんの動物が飼育されていて、触ることができるものもありました。私は、そこでホスト・シスターとラクダに乗りました。初めて乗ったので、とても楽しかったです。最後に、コアラを抱っこしてホスト・ファミリーと記念写真を撮りました。その写真は、現在は私の家の居間に飾られていて、お気に入りの1枚です。

この海外派遣に関わった全ての方々と、奇跡的な出会いに感謝しています。ホスト・ファミリーと過ごした時間は、私の人生の宝物です。

I thank for the special encounter.



初めてラクダに乗りました



バディ・ステューデントと学校と一緒に

目標の達成と自己評価など

1 海外派遣事業に親善大使として参加するにあたり、目標を決めましょう。

目標① ホストファミリーと積極的に話し、ブリスベンの文化を学び、燕市の良いところや日本の文化を伝えてくる。

目標② 私は普段、曖昧な態度をしてしまうことが時々あるので、それを改め今回のホームステイではYesかNoかをはっきり言えるように心がけたい。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 今回の海外派遣で燕市のPR活動をして3回行いました。ワイズ形式で行ったので、燕市のことをよく知り、もらったと思います。

目標②について 全てとは言えないが、自分の気持ちをしっかりと伝えることができた。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーと動物園に行ったことです。私はそこで、ラクダに乗ったり、コアラを抱っこしたりと日本では体験出来ない貴重な経験をする事ができました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

今回の海外派遣で、自分の伝えたい事の全てを英語で話す事は出来なかったのですが、私はこれから英語をもっと勉強して、適切な英語で伝えられるようにしたい。

5 海外派遣事業への参加を希望する人へのアドバイスを書いてください。

話の話題がなくなった時に写真を見せるといいと思います。私は、家族旅行の写真や、好きなアーティストの写真を見せたりしました。

ファミリーと過ごした楽しい時間

燕中等教育学校 3年

白 椿 雅 唯

私が海外派遣に参加した理由は、兄が2年前に参加したときの話を聞いて、行ってみたいという強い希望をもったからです。その希望は、8月17日に現実のものになりました。シンガポール経由の長い旅でしたが、オーストラリアが近付くにつれて、胸の鼓動が速くなりました。

初日はブリスベン市内の視察をして、夕方にホスト・ファミリーと対面しました。彼らは、私を笑顔で迎えてくれました。その日は何を話しているのか聞き取れず、上手に返事をする事ができませんでした。しかし、2日目からは、ホスト・ファミリーがゆっくり話してくれたので、私も辞書を片手に単語を調べたり、ジェスチャーを交えたりして答えるように努力しました。すると、いつの間にかコミュニケーションがとれるようになりました。

自転車に乗り、気持のよい風を受けて、雄大な景色を見ながらの登下校は最高でした。帰宅後は夕食を一緒に作ったり、子どもたちとUNOをして遊んだり、ピアノを弾いたりしました。また、つばめっ子カルタを使って、燕市について説明したり漢字を教えたりすると、とても喜んでくれました。私は、寝る間際までファミリーのいる居間で宿題をしたりして過ごしていたので、まるで日本の自分の家にいるような感じでした。

一番の思い出は、週末のキャンプでした。土曜日の午前3時に起床して出発しました。到着したのは、隣のNew South Wales州でした。まさかそのような場所まで来るとは思わなかったので驚きました。みんなで一緒にテントを張って準備を終えると、樹齢が約100年もの大木や、オーストラリア大陸最東端のバイロンベイ岬の灯台やビーチを見たりしました。キャンプ場



キャンプ場の近くの公園でホスト・ファミリーと



に戻ってからも、犬の散歩で公園に行き、その公園の遊具でホスト・ファミリーと思いっきり遊びました。最高の週末でした。

学校最終日のさよならパーティーでは、私のつたない英語を一生懸命に理解してくれた家族の皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいでした。

今回の海外派遣の経験を今後の生活で生かして、さらに英語力を向上させたいです。最後に、私にこのホームステイを経験させてくださった方々、そしてホスト・ファミリーの皆さん、本当にありがとうございました。

オーストラリア最東端のバイロンベイ岬の灯台

目標の達成と自己評価など

1 海外派遣事業に親善大使として参加するにあたり、目標を決めましょう。

目標① 明るく笑顔で積極的に会話をする事である。英語力や「コミュニケーション能力の向上」に努め、今後の学校生活や勉強に役立てていきたいです。

目標② 燕市の産業や、特徴のあるラーメンについてたしこの人に知ってもらいたいことです。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 英語を聞き取る事が難しかったり、伝える事も大変でしたが、辞書とジェスチャーを使い会話ができるようになりました。お手伝いや遊んだりすることでコミュニケーションも十分とれました。

目標②について 燕市のパンフレットを見て洋食器やラーメンなどを紹介したり、つばめっ子カルタを見ながら漢字を教えたりしました。喜んでくれました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

夜中の3時に雨の中キャンプに行ったことです。途中車の中で寝てしまいましたが、到着した所がニューサウスウェールズ州。そこでバイロン・ベイを見たり、バイロン・ベイのビーチに行ったり、樹齢約100年の大木を見たことです。どれもダイナミックさを感じました。素晴らしい旅でした。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

会話ができる楽しさを知ったので、もっと英語を勉強し、スムーズな会話ができるようにしたいです。そしてまた海外に行きたいです。

5 海外派遣事業への参加を希望する人へのアドバイスを書いてください。

笑顔とジェスチャーで相手に一生懸命伝えようとすると理解しようとしてくれるので、ぜひ積極的に会話をして下さい。寝る間際まで一緒にいるとコミュニケーションが富みます。

人の温かさ

燕中等教育学校 3年

高井 優 香

私は、今回の海外派遣で、オーストラリアに行きました。そして、クイーンズランド州のバーペンゲリー市で、ヘザリーとローレンスという御夫婦のお宅にホームステイさせていただくことになりました。彼らの子どもたち

は、すでに成長して別に暮らしていたので、子どものいない家庭でも大丈夫だろうか、私の英語は通じるのだろうか、食事は口に合うのだろうかなど、不安でいっぱいでした。

そのような不安を抱えたまま、私はオーストラリアに旅立ちました。初日の夕方に、ホスト・ファミリーと対面しました。対面した直後に、ホスト・マザーが”Hi, Yuka. Welcome to Australia.”と元気いっぱいに挨拶してくれました。そのおかげで、私の緊張はすぐに解けました。家に着いてからも、ずっと親切にしてくれました。私は、「とても優しい御夫婦だ」と思いました。

日を重ね、週末になりました。私は、ホスト・ファミリーのお孫さんの誕生会に行くことになりました。とても楽しみにしていた反面、緊張もありました。しかし、とても陽気な方々ばかりで、「あなたが優香ですね。ずっと会いたいと思っていました。」と歓迎してくれました。パーティーには、たくさんのお料理やお菓子、飲み物が用意されていました。日本では見たことのないようなものばかりでした。何を食べたらよいのか分からず、戸惑っている私に、皆さんがそれらの料理の全ての名前を教えてくださいました。また、それらがどのような食べ物なのかを見せるために、一口サイズに切ってくれました。私は、とても嬉しかったです。その後も、オーストラリアのお土産スポットなど、たくさんお話をしてくれました。

10日間のホームステイを終えて、日本に帰らなければならない日がやってきました。とても楽しい10日間だったので、帰たくありませんでした。学校で一緒に過ごしたバディ・スチューデントから、オーストラリアのお土産をもらいました。

オーストラリアの人々は、知らない人にも挨拶するし、コミュニケーションでも優しい配慮があって温かいということを学びました。私も、そのようなことができる人になりたいです。今回の海外派遣は、私にとって素晴らしい経験であったと改めて思いました。



親戚の誕生会で用意されたたくさんの食べ物



Mt. Coot-thaの展望台で親善大使全員で記念撮影

目標の達成と自己評価など

1 海外派遣事業に親善大使として参加するにあたり、目標を決めましょう。

目標① 現地で生の英語に触れる機会があるので、英会話の向上、発音の向上。

目標② ホームステイの方々と仲良くなり、オーストラリア、ブリスバンの文化を学ぶ。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 辞書を使ったりした時は数回あったが、ジェスチャーを使うことを心がけていたので、発音の向上ははかれたと思う。

目標②について 今回、市役所や先住民族のアボリジニを見学する事ができたので、達成できたと思う。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

私のホームステイ先で、お孫さんのバースデーパーティーがあったのですが、お菓子や飲物、食べ物がたくさんあって日本のバースデーパーティーとはまるで違うものでした。また、オーストラリアでしかやらないバースデーゲームなどをやりました。とても楽しかったです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

今回、生の英会話を話すことができた、発音、イントネーションを知ることができました。これを活かし、これからの英語の勉強、生活に使っていきたいです。

5 海外派遣事業への参加を希望する人へのアドバイスを書いてください。

私は最初、英語が伝わるかどうかとても心配でした。しかし、実際に現地に行ってみると、ジェスチャーや単語だけでも伝わりました。やる気と笑顔さえあれば大丈夫です！

One for all, all for one.

燕中等教育学校 3年
平 澤 澄 果

私は、今回、親善大使としてオーストラリアを訪れました。初めての海外での生活は、日本との違いがあまりすぎて驚きの連続でした。

そのような日々の中で多くの人たちと出会い、たくさんのことを発見し、将来の夢について考えることができました。

出発するとき、私は不安と少しの余裕をもっていました。青い空と白い雲、信号機や道路の標識でさえ新鮮に見えた12日間を、私は一生忘れることはないでしょう。

ホスト・ファミリーと対面してから、私の気持ちの余裕は消え去りました。慣れない環境と英語。まるで異次元の世界に1人で来たかのような孤独を感じ、夜もほとんど眠ることができず「日本に帰りたい。」と思う日が続きました。

しかし、私はある日ふと思いました。「私は、ここに何をしに来たのだろうか。自分が決めた目標や、親善大使としての使命を忘れたままでよいのだろうか。」そして、ある言葉を思い出しました。「環境が変わるのではない。自分自身が変わらなければ、何も始まらない。」そして、私は全てを環境の変化のせいにしていたことに気がきました。自分から話しかけたり、自分からやってみたりする。積極的に行動することが大切なのだと思うようになりました。

また、仲間と協力することの大切さも改めて実感しました。今回の海外派遣は、決して自分一人の力だけで実現しているわけではなかったのです。親善大使一人一人が、引率者の先生方が、現地の先生方や生徒の皆さん、ホスト・ファミリーの皆さんの協力があって、この研修が充実したものになりました。”One for all, all for one.”という有名な言葉が、この海外派遣にぴったりだなと、帰国してから思いました。

この海外派遣事業で、私は夢を見付けることができました。それは、世界を知ることです。自分から現地に行って、たくさんの人と出会い、多くの文化を学び、それを日本の子どもたちに伝えることが、私の夢となりました。この夢をかなえるためには、私はもっといろいろな知識

や努力が必要です。そのため、毎日の学習に一生懸命に励み、多くのことに興味や関心をもって調べてみたいのです。

最後に、この研修に関わっていただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



ブリスベン市の水上バス乗り場で友達と一緒に



休日にホスト・ファミリーと一緒に登った山で

目標の達成と自己評価など

1 海外派遣事業に親善大使として参加するにあたり、目標を決めましょう。

目標① 海外という未知の世界にとびこみ、普段感じられない新鮮さを感じる体験をたくさんする。また、現地の人とコミュニケーションを多くとり、英語力をあげたい。

目標② 燕市の宣伝をしてくる。現地の人が「訪ねて来たい」と思ってくれるように話せるよう準備をしていく。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 何よりもおかげで違う世界で多くの人と出会い、新しい発見をし、自分が作っていた限界という壁を突き破るということができたと思う。コミュニケーションがたくさんとれた。

目標②について ホストファミリーにたくさん話せたことができた。でも、あまり詳しく説明することができず、質問されても答えられなかったという点では少し残念だった。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

アボリジニの歴史について学んだこと。日本と数々の文化の違いが潰れて無くなっているのに国民一人一人がアボリジニの人の歴史を知り、守っているという点に感動した。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

英語をもっと学びたい。その他にも多くの国々について知り、将来、現地に行けるように自分の授業などにより一層励みたい。

5 海外派遣事業への参加を希望する人へのアドバイスを書いてください。

大切なことは“自分から”という気持ちの持ち方です。あと、周りの人から困ったときは助けられるので心配せずがんばって！

【Jack&Bettyプロジェクト】ブリスベン派遣生体験報告（英文）

The visit that changed my perspective

Yoshidaminami Elementary School 6th Grade **Chika Hosokai**

This visit was the first opportunity for me to go abroad. So, I was very nervous before I went to Australia.

But when I came back to Japan, I realized that I really had a very good time. I wanted to stay there longer because my days in Australia were very full. I had various experiences during those twelve days.

On the first day in Australia, we visited Lone Pine Koala Sanctuary. There were kangaroos, crocodiles, bats, sheep, goats, and so on in the sanctuary. I was able to approach and take some pictures of the kangaroos because they were jumping and lying in the field and the visitors were allowed to enter there.

We met our host families in the evening and went to their homes. My host family was wonderful. My host mother, Belinda, was the local coordinator of our study visit, and she taught us English and about Australian culture. I went to school with her every day. She is a very interesting person and a kind teacher.

My host father, Brett, is also an interesting person, but he is very busy. He wasn't at home often on the weekdays, so I saw him only that weekend. My host brother, Raymond, is a university student. He stays in the dorm and usually works late at night. My host sister, Riani, is eight years old. She played with me every night. I was sometimes tired, but we had a good time. They keep two dogs and a tortoise. The dogs are very cute, and the tortoise seemed to have a strong bite. Thanks to them, I spent my days in relaxation and without anxiety.

Then, we visited Brisbane and saw a famous bridge named "Story Bridge". We saw the beautiful night view from Kangaroo Point, too. We ate dinner in the restaurant where Raymond worked. There was a touch panel to order food, and the dinner was very good.

Time flew by after the weekend. I had a very hard time saying good-bye to my host family on the last day. On the returning plane ride, I even changed my mind about going back to Japan. I thought I wanted to go back to my homeland at first, but I didn't feel that way anymore. I really enjoyed and made a lot of memories in Australia.



Mt. Coot-thaの頂上で



間近で見たコアラの親子



Book Weekの仮装

My first visit to a foreign country

Bunsui Elementary School 6th Grade **Arisa Hakoda**

I made five memories during the visit.

The first one was riding planes. I was very worried about riding an airplane for the first time, but I got to see some very beautiful views.

The second one was culturally exchanging with my host family and buddy students. My host family was very kind to me and made me a lot of delicious food every day. I was happy to see my buddy students because they greeted me cheerfully at school and played with me every day.

The third one was sightseeing. I was able to see many things that I could not see in Japan. The weather was really fine while we were in Brisbane. The sky was very beautiful, too. I made a lot of memories at the places my host family took me during the weekend and in downtown Brisbane.

The fourth one was taking the English lessons. Besides listening and speech practices, the teacher gave us many opportunities to use English. She gave us treats when we answered the questions correctly, and we learned some songs about birds in Australia and a dance that indigenous Australians do. I wish I could have such lessons in Japan as well.

The fifth one was eating the meals. My host family often ate Japanese-flavored food which I enjoyed eating. But they sometimes served me something that was hard for me to eat or drink. When I had to do so, I thought it was one of the special experiences which I could only have in foreign countries. I hope I can eat the ice cream I ate with my buddy students and the lunch that my host family made for me again.

After traveling and staying in Australia, I realized that Japan and Australia are far away, even though they look close on a map. For example, it is dry in winter in Australia. My lip became rough during the first two or three days, but it got better a few days later. I thought I could get used to the weather and learn English more if I stayed there longer.

I had a wonderful time. It seems like I had been in a dream. I definitely want to go to Australia again someday.



Lone Pine Koala Sanctuary



Book WeekのParade（集会）



学校で燕市のPR活動

My Host Family

Koike Junior High School 1st Grade **Aya Sodeyama**

I departed from Japan for the first time on August the 17th, and arrived in Australia the next day. I realized I came there when I saw the colorful buildings and a lot of eucalyptus trees.

We visited Mt. Coot-tha from downtown Brisbane, and the Botanical Gardens of Mt. Coot-tha in the morning. There were yellow bamboos in the garden. We enjoyed seeing animals at Lone Pine Koala Sanctuary in the afternoon. I held a koala and took a picture. I really loved Australia through the tour.

We met our host families in the evening. My host family had three people. They were very cheerful and talked to me a lot. I am not good at talking with people I meet for the first time because I am very shy. But they asked me various questions. For example, they asked me what I did at school when I came home each day. They also explained to me what the ornaments relating to Christianity were.

I was not able to understand them when they spoke to me on the first day. But the more I asked them to repeat what they said, the more relaxed I became. I could understand what they spoke sooner about a week later as my English was improved. It was interesting for me to speak English. I felt time flew so fast every day.

The ten-day home-stay was over very soon. I did a quiz and presentation about Tsubame City at the farewell party. My host family answered the most out of all the guests. Then, they gave me a present when I came home that night. They bought me a wombat stuffed doll because they knew I liked animals. Thanks to my wonderful host family, my stay in Australia was very fulfilling.

I will never forget those days. I would like to go to Australia and see my host family again. Thank you, my host family.



Queensland州選出の国会議員と



PR活動もにこやかに



みんなで仮装して集会に参加

This experience is my treasure.

Tsubamekita Junior High School 2nd Grade **Takumi Nagai**

It was my first overseas trip. After I was chosen as a goodwill ambassador, I always felt expectant and anxious every day.

After I received an e-mail from my host family, I felt easier.

But I became nervous and felt uneasy again when I departed from Japan. We arrived in Brisbane after the ten-hour flight. We visited Mt. Coot-tha, Botanic Gardens, Lone Pine Koala Sanctuary, and so on. I was moved when I held and took a picture with a koala.

Afterward, we finally met our host families. I was nervous then. But they said good-naturedly, “Hi, Takumi.” That made me smile.

We went to school the next day. My host mother prepared lunch for me every day. But because I didn’t know the timetable of the school well, I couldn’t finish my lunch. When I confessed this to my host mother, she said, “Thank you for telling me.” I was delighted to know that she understood, and then I wanted to speak English more.

My host family asked me where I wanted to go on weekend. But because it was rainy on the weekend, we had to give up on going fishing and went shopping on Saturday instead. I spoke in English a lot, but it was not easy to understand everyone. I tried to explain what I wanted to do with only very simple words and some gestures, too. When I got them to understand me, I felt more confident. I was happy to see my host family trying to understand my broken English.

My host family enjoyed playing “Tsubamekko Karuta” cards with me on Sunday. I tried very hard to help them understand the contents of the cards. The more we played, the more my host family understood the contents. I felt huge sense of achievement when they requested to play again.

I don’t think I could have such experiences in Japan. They are my lifetime treasures. I was very happy to take part in the study tour, and I want to go abroad again. I am obliged to all the people who gave me this opportunity. Thank you.



コアラを抱っこ



先住民の伝統楽器を演奏



ブーメラン制作体験授業

A life memory

Yoshida Junior High School 3rd Grade **Misaki Miyashita**

I had many valuable experiences during my twelve days in Australia. I didn't study at any English conversation schools in Japan. The only occasion for me to learn English was at school. I didn't have much self-confidence even if I was chosen as a goodwill ambassador. But I wanted to improve my English as much as possible because I received such a special opportunity.

When we arrived at Brisbane International Airport, almost all the people around us spoke English. Arriving in Australia, I realized I had to speak English. I made up my mind that I would not give up easily.

We met our host families in the evening. My host family talked to me a lot, and they waited for my answers for a while. But I was relieved when I could make them understand me.

I made two good memories in Australia. One of them was with my buddy students. They were twelve years old and younger than I. I was surprised that they understood my simple and broken English. So, I enjoyed talking with them very much.

The second memory was with my eldest host sister and her friends. We had a birthday party for one of her friends, and we played the LIFE game. I was glad that her four friends spoke to me a lot and let me join them. Two of them were very interested in Japanese and sometimes talked to me in Japanese. I felt that I had made very good friends in Australia.

I worried a lot before I went to Australia. But I was able to learn more than I expected. I want to visit Australia and see my host family again. I hope I can speak English better then. I am really thankful to my host family and my buddy students. The visit to Australia has become my once-in-a-lifetime memory.



Book Weekの仮装



Buddy studentsと受けたレッスン



国会議員と握手

My first homestay

Bunsui Junior High School 2nd Grade **Saki Shimomura**

For the rest of my life, the homestay in Australia will be my unforgettable and amazing memory. I had been really looking forward to the visit even before I went to Australia. My desire to try hard to understand in English was stronger than my anxiety about using English well enough. All the things were the first experiences for me. I had never been to any foreign countries. I had never stayed with other families. I had never flown on an airplane. So, I was very excited.

We met Belinda and Linda at the airport. They were the first people we spoke to in Australia. They took care of us a lot while we were there. Linda was my host mother. I was very nervous when she took me to her home. I was worried whether we could get along well each other. But her family was very kind, and was able to live peacefully with everyone.

They took me to a meadow. It rained a lot when we visited the meadow, but we had a very good time. Linda and I also went shopping together. I enjoyed seeing various stores.

I had a productive time at school, too. I was happy to meet my buddy students, who talked to me slowly and tried hard to listen to me very hard.

The presentation we did as the goodwill ambassadors from Tsubame City was also a special experience for me. I explained what my hometown was like to my host family.

I realized that my English was not good enough yet through the study tour. I will study English more and visit Australia again.

Many people supported me so that I could participate in the tour. Thank you very much for giving me such a wonderful opportunity.



Lone Pine Koala Sanctuary



Farewell Partyでクイズ



英語のレッスン

My summer vacation in Australia

Tsubame Secondary School 2nd Grade Chisato Konakawa

I learned a lot through the study tour.

The first is about food and life in Australia. My host family had five people. They ate bread with vegemite for breakfast every morning. Vegemite is a dark brown food paste made from leftover brewers' yeast extract with various vegetable and spice. It tastes like Japan's miso. I was surprised when I tasted it for the first time.

I was also surprised that some people wore shoes while others took them off inside the house. It was strange for me to enter the house with wet shoes. But the longer I stayed, the more I got used to the custom. I felt uneasy at first, but I came to enjoy the Australian life style.

My host family took me out to shop and play games. I also explained what Tsubame City was like through Tsubamekko Karuta cards. My host family loves sports. So, I joined a high jump practice that my host sister took part in. I talked with them, so the family ties grew stronger.

The second thing is about indigenous Australians. We learned about painting boomerangs, traditional songs, the arts, and so on. When we visited Riverlife Adventure Centre in Brisbane, we saw some traditional dances in their traditional way. The dancers showed us various unique movements and their meanings, which were about their hunting and living creatures in Australia. They taught us how to dance. I thought about looking into this culture more by myself.

I was able to study various things that are not often taught in Japan during the twelve days. Australia is a wonderful country. There are many things I haven't learned yet in the smallest continent on the Earth. When I go there next time, I hope I can speak English better to communicate with many people and study more about Australia.



英語のレッスンにも慣れて



お別れ会での記念撮影



調理実習の先生は男性

Thank you for the surprises, meetings, and fun.

Tsubame Secondary School 2nd Grade Rino Koda

I had a lot of surprises, meetings, and fun during my twelve days in Australia. I was nervous in the shinkansen to Tokyo. But I had a very good time after staying in Australia.

I was very amazed in Australia. I heard that it was winter there and that spring would be approaching. But the weather was just like summer. The sky was blue, and the sun was shining. It was totally different from the winter in Niigata. The steep roads and the traffic lights were also different from the ones in Japan.

My host mother embraced me and welcomed me when I met her. She asked me, "How are you today?", and I cheerfully answered that I was happy. I was so jetlagged that I slept in the bus on the way to my host mother's town. She asked me a lot of questions as we went home. We drove towards the mountains and were already far from the downtown area. I understood the reason why when we arrived home. My host family had a meadow. That was why they lived far away from the city centre. She said, "Look, Rio." on the way home. I saw a wild kangaroo when I looked at the outside. I will never forget that.

The next day, I went to school. I met my buddy students. I was initially worried about who my buddy students would be. But I was relieved to know that one of the students was my host sister.

We learned English and about indigenous Australians at school. The teachers eagerly taught us about them. It was not difficult to understand the lessons even though they explained it in English.

Time flew by. The final day came. We said good-bye to our host families and buddy students. I realized how interesting and important English was while I was in Australia. I want to find a job that allows me to associate with people in the future. I also want to use English for work. I will study hard to understand and acquire the necessary skills and education for my future.



仮装は結構楽しい



空港で先生方に挨拶



調理実習は日本語禁止でした

A once-in-a-lifetime chance

Tsubame Secondary School 3rd Grade **Airi Uchiyama**

I took part in the study tour as a goodwill ambassador. I felt very uneasy and nervous, and worried a lot about my host family and the life in Australia before I left Japan. I was afraid about whether I would be able to communicate with them. So, I was very happy to receive an e-mail and to exchange e-mails with my host family before my trip to Australia. They made me feel relaxed and comfortable.

My host family came to the meeting place in the evening on the first day. We had finished a tour in Brisbane before we met our host families. They were very kind and sweet. They were my ideal host family. My host sister was as old as I. We quickly became good friends.

I was able to become good friends with my buddy students at school, too. There were many surprises to find that there were corridors outside of the school building we went to. They also don't have snow in Brisbane during the winter. It is very mild and warm. So the students usually eat lunch outside. The lunch boxes are bigger. Some students bring very big apples, and others have sandwiches and some snacks. One day, I played tag with my buddy students after lunch. The way to decide "It" and the rules were not the same as in Japan. I discovered a cultural difference.

I also found a difference between Australia and Japan within the house. For example, Australians enter the house without taking their shoes off. They also open the door to let others into the room, and close the door if they don't want others come in. We don't do that in Japan. But I remembered the saying "When in Rome, do as the Romans do" as I stayed in Australia.

I visited the Australia Zoo during the weekend with my host family. There were many animals, and the visitors were allowed to touch some of them. My host sister and I enjoyed riding a camel, which was the first time for me. I held a koala and took a memorial picture with my host family, too. It is my favorite picture and is now displayed in the living room of my house.

I am grateful to all the people who supported the study tour and the incredible meetings I had in Australia. The time I spent with my host family is something I will treasure for the rest of my life. Thank you for the special encounter.



PR活動を終えて一安心



英語のレッスンで発表



Opal Aged Care Centreにて

The pleasant time with my host family

Tsubame Secondary School 3rd Grade **Miyu Shirotsubaki**

The reason I participated in the study tour was because my brother took part in a similar tour two years ago. I really hoped that I would be able to join it, too.

My hope came true on August the 17th. It was a long journey via Singapore. The closer we went to Australia, the faster my heart raced.

We toured in Brisbane in the daytime and met our host families at night time on the first day. They welcomed us with smiles. I was not able to listen and answer their questions well that day. So the next day they spoke slowly. I also kept using my dictionary to look up words and trying to express myself with gestures. In an indiscernible way, I could communicate with people.

It was very comfortable for me to go to school by bike on those fine, breezy days. I cooked dinner with my host family and played the piano and UNO with the children. They also enjoyed my explanation about Tsubame City through Tsubamekko Karuta to explain my hometown. I felt I was still at home in Japan, staying in the living room with my host family and doing my homework there.

The best memory was the camping during the weekend. We got up and left home at three a.m. We arrived in New South Wales, the neighboring state to my host family's Queensland. I was surprised to learn where we were because I wasn't expecting to come to the next state. We pitched the tent and prepared for camping. Then, we saw some big trees that were over one hundred years old, and we visited the beach and the light house at Byron Bay, which is farther east of Australia. When we went back to the tent, we walked our dog in the park and played at the playground there. It was a very good weekend.

I wanted to express my deepest gratitude to my host family for understanding my broken English at the farewell party.

Because of my experiences during the study tour, I would like to improve my English more. I thank my host family and all the people who supported my visit.



ホストファミリーとの対面式で挨拶



Lone Pine Koala Sanctuaryにて



リーダー同士で日程の確認

The warmth of the people

Tsubame Secondary School 3rd Grade **Yuka Takai**

I visited Australia as a goodwill ambassador. I stayed with Heatheriee and Laurence in Berpengary, Queensland. Before living with them, I was worried. Their children are already grown up and live in a different place. So, I was afraid of staying with a family without other children and having them understand me. I also worried about food.

When I departed from Japan, I was still nervous. I met them in the evening on my first day in Australia. Soon after I met my host mother, she said very lively, “Hi, Yuka. Welcome to Australia.” Thanks to her greeting, I became relaxed. From the very beginning, they were very kind. I thought that they were very sweet couple.

We went to the grandchild’s birthday party during the weekend. I was interested in the party, but became uneasy again. But all the people I met at the party were very cheerful. They welcomed and said to me, “You must be Yuka. I have been looking forward to seeing you.” There were also a lot of food, sweets, and drinks. I had never seen them in Japan. When I was at a loss at what to eat, the people explained the names of different food and cut them into small pieces to show me what they were like. I was very happy. They talked about Australian souvenir shops and so on, too.

We finished the ten-day home stay and had to go back to Japan. I didn’t want to go back because the ten days were fantastic. My buddy students even gave me some souvenirs.

The people in Australia say hello even to strangers and show their hospitality when they communicate with anyone. I thought to myself that I wanted to become a warm and sympathetic person that others could discern. I realized again that the study tour was a wonderful experience.



PR活動を始める挨拶



在ブリスベン日本国総領事館にて



調理実習でバディ・ステューデントと

One for all, all for one.

Tsubame Secondary School 3rd Grade **Sumika Hirasawa**

I visited Australia as a goodwill ambassador. My first time in a foreign country was surprising because there were a lot of differences from my life in Japan.

I discovered many things and met many people in Australia. I also thought about my future.

I was composed but a little nervous when I left Japan. I will never forget the twelve days in Australia. I saw blue skies and white clouds. Even the traffic lights and signs looked new to me.

I was not composed anymore when I met my host family. It was a completely foreign environment. I had to use English all the time. It was like I was alone in a totally different world. I couldn’t sleep well at night, too. I wanted to go back to Japan then.

But one day, I thought about the purpose of the visit. “Why did I come here? Is it all right to forget my mission as an ambassador?” I realized that I didn’t need to change the environment but my point of view. I found that I had put down my negative attitude to the change of environment. I thought to myself that it was necessary for me to talk to everyone, try doing everything, and be more actively.

I also realized the importance of cooperating with others. There were many people who supported the study tour. Every ambassador, chaperones, local staff, and host families continually helped me to join the tour. After I came back to Japan, I found the saying “one for all, all for one” was the most suitable expression.

I found my dream through this tour. It is to learn about the world. I will visit many places, meet many people, and learn many cultures to tell to Japanese children. It is my dream. I need to learn more and make more effort. I will study hard every day and examine various things.

I am much obliged to all the people who supported the study tour. Thank you very much.



Mt. Coot-tha山頂にて



レッスンの休憩時間



PR活動後に地元の国会議員と

海外派遣事業　ブリスベン親善大使アンケート　集計結果

派遣先	学年	性別
オーストラリア　ブリスベン	小学6年生2人	
	中学1年生1人	男　　1人
	中学2年生4人	女　11人
	中学3年生5人	

Q1　海外派遣はどうでしたか？

①良かった　12人　　②まあまあ良かった　0人　　③あまり良くなかった　0人　　④悪かった　0人

●その理由は？（具体的に）

- ・ホスト・ファミリーがとても親切だったので、楽しかったです。学校でも、バディ・スチューデントとすぐに仲良くなりました。
- ・初めての体験ができたからです。
- ・12日間の英語を使った生活で、英語力が伸びました。
- ・自然が美しい場所で、現地の人たちが温厚で優しくしてくれました。
- ・皆さんが優しく、話しやすかったです。
- ・ずっとオーストラリアにいたいと思いました。日本のことも伝えることができたので、充実していました。
- ・アボリジニの文化などを学ぶことができたので良かったです。
- ・日本とは違う生活を送りました。ホスト・ファミリーが知らない単語を使ったときは調べて、単語をたくさん覚えることができました。
- ・オーストラリアのことをたくさん知ることができました。英語で話されたことを、少しは理解して答えることができるようになりました。楽しかったです。
- ・自分の視野を広げることができました。
- ・英会話の向上につながりました。ホスト・ファミリーと仲良くなりました。現地の友達もできました。
- ・今までは、すぐに自分の限界を作ってしまいましたが、とりあえずやってみようという考え方に変えることができました。

Q2　日程はどうでしたか？

①きつかった　1人　　②ややきつかった　3人　　③やや楽だった　8人　　④楽だった　0人

●体調や精神面で特につらいと感じたときはありましたか？あれば具体的に書いてください。（飛行機、英語、食事、日程など）

- ・飛行機の中では、耳が痛くなりました。
- ・食事の量が多かったです。
- ・いろいろと予定が変わったことです。
- ・飛行機の揺れの感覚が残りました。
- ・食事が肉ばかりでした。最初は嬉しかったのですが、後半はとてもきつかったです。
- ・夜中の飛行機の乗り換えで、食事のタイミングが違ったので、気分悪くなったり疲れたりしました。（3人）
- ・8月21日は、ブリスベン市の訪問でいろいろと時間が変わって、昼食をきちんと食べることができなかったです。

- ・乗り物酔いをするので、飛行機の着陸がつかったです。
- ・初日に、英語が分からなかったです。
- ・スケジュールが詰まっていて、自分の宿題もやりながら、ホストファミリーのも会話の時間も必要でした。
- ・食事の味が濃かったです。
- ・現地の英語と自分が習った英語のギャップがありました。

Q3　期間は どうでしたか？

①長かった　0人　　②やや長かった　1人　　③ちょうどいい　0人　　④やや短かった　8人
⑤短かった　3人

Q4　海外派遣の中で、良かった場所や活動は何ですか？「特に良かった」ことを◎に1つ、「良かった」ことを○に4つ以内で記入してください。また、「良くなかった」ことがあれば、△に3つ以内で記入してください。

◎「特に良かったこと」

- ・学校（4人）
- ・バディ・スチューデントとの交流（2人）
- ・ローンパイン保護区（2人）
- ・ホームステイ（3人）
- ・ブリスベン市訪問
- ・アボリジニの体験レッスン
- ・お別れパーティー

○「良かったこと」

- ・ローンパイン保護区（3人）
- ・英語のレッスン（3人）
- ・ブリスベン市訪問（6人）
- ・ホームステイ（4人）
- ・学校（4人）
- ・植物園
- ・アボリジニ文化のレッスン
- ・お別れパーティー
- ・在ブリスベン日本国総領事館（2人）
- ・Mt. Coot-tha
- ・学校での燕市PR活動
- ・買い物
- ・燕市のPR活動（2人）
- ・バディ・スチューデントとの交流（2人）

△「良くなかったこと」

- ・学校の集会での仮装
- ・食事
- ・飛行機
- ・スケジュールのきつさ
- ・石鹸がなかったこと
- ・水がおいしくなかったこと
- ・Mt. Coot-tha

Q5 ホームステイの期間はどうか？

①やや長かった 0人 ②ちょうどいい 2人 ③やや短かった 6人 ④短かった 4人

Q6 ホームステイで良かったことを書いてください。また、困ったことがあれば、具体的に書いてください。また、困ったことを解決するために自分がしたり、事前に準備したりしておくべきことを具体的に書いてください。

①良かったことは？

- ・ホスト・ファミリーと会話して楽しかったです。（4人）
- ・オーストラリアについてたくさん教えてもらいました。（2人）
- ・ホスト・ファミリーが明るくて、話しやすかったです。（2人）
- ・プレゼントをたくさんいただいたり、伝えたいことをしおりを見て伝えたりしたことです。
- ・バディ・ステューデントとの交流です。
- ・たくさん話しかけてもらったことです。（2人）
- ・いろいろな場所へ連れて行ってもらいました。（2人）
- ・オーストラリアの人たちの温かさを実感しました。

②困ったことは？

- ・トイレにごみ箱がなかったことです。
- ・シャワーの使い方が難しかったです。
- ・バディ・ステューデントが男子だったので、お土産をどうすればよいかわからなかったです。
- ・テレビなどは、字幕がないと分かりませんでした。
- ・食事の量が多かったので、減らしてもらいました。
- ・ごみをどのように捨てたらよいのかが分かりませんでした。
- ・ホスト・ファミリーの就寝時間が早かったことです。
- ・伝えたいことをうまく話すことができなかったときです。（4人）

③自分のしたことや事前の準備は？

- ・自分の部屋のベッドメイキングと机の整理をしました。
- ・洋服は、あとでパッキングに困らないように、洗濯をしてもらったらスーツケースに入れていました。
- ・水不足などの現地での問題を踏まえて、洗濯の回数を減らしても大丈夫のように下着を多めに持って行きました。
- ・習字をやって見せられるように準備しました。
- ・家族の写真を持って行きました。
- ・お土産の説明を英語でできるようにしました。（3人）
- ・“Thank you.” “please”などを言うようにしました。
- ・目標をもつことと、その国の文化などを調べておくことが大切だと思いました。
- ・お土産リストを作って、誰に何を買うのかを記録しておくといいです。
- ・お土産や日本の写真などを多めに用意しました。

Q7 海外派遣で、とまどったことや不安に思ったこと、疑問に感じたことなどがあれば、具体的に書いてください。

- ・バディ・ステューデントの人数が3～4人で驚きました。1人かと思っていたので、お土産の準備ができませんでした。
- ・自分の話す英語が間違っていないかが不安でした。（3人）

- ・ホスト・ファミリーに、日本食を作ってほしいと言われました。
- ・ホームシックになりました。

Q8 海外派遣について意見や感想、要望などがあれば自由に書いてください。

- ・最初は長いと思っていた12日間でしたが、終わってみるとあっという間でした。
- ・飛行機の乗り継ぎが夜だったので、つらかったです。
- ・夏休みにしなければならないことがあり、大変でした。
- ・もっとホームステイを長くしたかったです。
- ・視野が広がり、自分の将来について考える機会になりました。

Q9 ホストファミリーのお土産として、何を持っていきましたか。具体的に書いてください。

- | | | |
|-------------|-----------------|-------------|
| ・紙風船 | ・お箸 | ・折り紙 |
| ・メモセット | ・扇子 | ・メッセージ入りの提灯 |
| ・手毬 | ・食べ物やお菓子の形の消しゴム | ・浮世絵の描かれた小物 |
| ・和紙のレターセット | ・スタンプ | ・ペン |
| ・ステッカー | ・つばめっ子かるた | ・万華鏡 |
| ・手ぬぐい | ・ストラップ | ・法被 |
| ・だるま落とし | ・風鈴 | ・竹トンボ |
| ・燕市のステンレス製品 | ・下駄 | |

Q10 文化紹介や燕市のPR活動のために、事前に準備しておいた方が良いことを具体的に書いてください。

- ・燕市PR活動の練習
- ・日本の文化や学校についての説明
- ・お土産の説明
- ・リスニングで英語に耳を慣らしておくこと。
- ・体調管理
- ・写真
- ・リスニングは大切です。（5人）

Q11 現地での英語のレッスンに備えて、事前に準備しておいた方が良いことを具体的に書いてください。

- ・ジェスチャーや反応を大きくすることです。
- ・基本的な会話や指示などを聞き取ることです。
- ・電子辞書を持っていくといいです。
- ・英語の勉強です。（2人）
- ・積極的な態度を見せるために、普段の授業でも発言や発表をするように意識しておくと思います。
- ・ノートを用意しておくことです。



パディ生徒たちと学校で記念撮影

私は、現地での学校生活がとても良い思い出になりました。パディ生徒が、優しくしてくれたので、すぐに仲良くなれたからです。一緒にバスケットボールをしたり、お菓子作りをしたりして、とても楽しかったです。

吉田南小学校6年 細貝茅可



図書室に遊びに来てくれたパディ生徒と

最初は慣れないこともありましたが、ホスト・ファミリーをはじめとする優しくしてくれた皆さんに感謝します。またいつかオーストラリアに行きたいです。

分水小学校6年 箱田有咲



パディ生徒やその友達と休憩時間に

現地の学校のパディ生徒と一緒に授業を受けたり、一緒に遊んだりしたことが良い思い出です。他にも大勢の友達を紹介してもらい、たくさん話ができて良かったです。

吉田中学校3年 宮下美咲



ホスト・ファミリーと自宅の前で

最終日のお別れは悲しかったけれど、それ以上にたくさんのお会いがあり、かけがえない思い出ができました。英語をもっと勉強して、もう一度海外へ行きたいです。必ず！

燕北中学校2年 永井匠



パディ生徒と一緒に受けた授業で

この海外派遣で思い出に残ったことは、パディ生徒たちと過ごしたことです。みんながとても明るく優しく、一緒にいてとても楽しかったです。

分水中学校2年 下村咲花



ブック・ウィークでみんなが仮装

私は、児童や先生方が自分のお気に入りの本の登場人物の仮装をして歩く「ブック・ウィーク」の全校集会が印象に残っています。私たちが仮装をして参加しました。

燕中等教育学校2年 粉川千慧



オーストラリア動物園の看板前でホスト・ファミリーと一緒に

私は、ホスト・ファミリーと一緒に動物園に行きました。そこでコアラを抱っこしたり、ラクダに乗ったりして、日本ではなかなかできない貴重な経験をすることができ、とても良い思い出になりました。

燕中等教育学校3年 内山愛里

ブリスベン
オーストラリア東部に位置する亜熱帯気候の都市。シドニー、メルボルンに次ぐオーストラリア第3の人口（約220万人）を誇る。南半球のため8月は冬だが、平均最高気温は約23度もあるので、日中は半袖で過ごせる日もある。高層ビルの合間に緑や公園が豊富にあり、自然と都市が融合した景観が美しいことでも有名。街の至る所でアートや歴史的建造物にも出会うことができる。



▲燕市PR活動を終えて記念撮影（現地の小学校にて）



ホスト・ファミリーと一緒に近所の公園で

海外派遣での思い出は、ホスト・ファミリーとゲームをしたり、近くの公園で思いっきり体を動かして遊んだことです。ホスト・ファミリーと過ごした日々は、私の宝物になりました。

燕中等教育学校3年 白椿雅唯



アボリジニの人たちと勇ましく「はい、ポーズ！」

“One for all. All for one.” 学校も学年も違う中で、1人1人の個性が輝きながら、12日間チームワーク良く過ごせたことは一生忘れません。ありがとう。

燕中等教育学校3年 平澤澄果



コアラ保護区でコアラを抱っこして

今回の海外派遣での一番の思い出は、現地の人たちの温かさです。とても陽気で優しくかったです。ホスト・ファミリーは、私を家族の一員としてとても大切にしてくれました。とても楽しかったです。

燕中等教育学校3年 高井優香

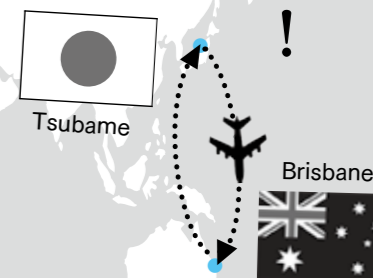


ホスト・ファミリーと一緒に

私のホスト・ファミリーはとても優しく、いろいろなことをさせてくれました。自分の話す英語が伝わると、改めて英語を話す楽しさが分かりました。

燕中等教育学校2年 古田理乃

ジャック アンド ベティ
Jack & Betty プロジェクト海外派遣事業
2年目の舞台はオーストラリアブリスベン！
今年で2年目となるJack & Bettyプロジェクト。そのファイナルステージである英語スピーチコンテストが6月22日に開催され、成績優秀者に選ばれた小・中学生12人が親善大使として、オーストラリア連邦のブリスベン市に派遣されました。親善大使は、8月17日～28日までの12日間、ホームステイをしながら異文化理解を深めるとともに、燕市の特色について現地でPRしてきました。



随行職員のコメント

燕市立吉田中学校 教諭 星 康司

今回のJack & Bettyプロジェクトの海外派遣事業に、研修という立場で随行させていただいたことを心から喜んでおります。海外へ行くのもこれが初めての体験で、12名の児童・生徒と一緒に入国カードを書いたこと、オーストラリアの学校の授業を受けたこと、現地の料理を食べたこと、行ってみないと分からないことを、数多く体験できたこと全て貴重な経験になりました。また、子どもたちが積極的に現地の子どもたちに話しかけている姿に勇気付けられ、私も負けまいとホストファミリーや出会った方々に関わろうとしたのを覚えています。そして、12日間の中で、英語学習者として、市民として、そして人として、本当に多くのことを学びました。

この研修で特に学んだこと・強く考えさせられたことは、やはり英語指導に関してのものです。英語上達の近道は「間違いを恐れず何度も何度も英語を使うこと」と実感しました。実際に、自分も話してみても気付いたのですが、「話すこと」と「書くこと」ということは違うもので、みなさんもお存知の三人称単数現在のsだったり、助動詞だったり最初のうちは、私は何度も何度も間違えていました。一方で、何度も何度も間違えているうちに、12日間という短い期間でしたが、徐々にその間違いが改善されていくことにも気付きました。

この経験により、今後の私の英語指導の方向性が明確になりました。私は、今まで「喜びのある英語授業・楽しい英語授業」を目指して参りました。今後は、それに加え、「発信型の英語活動」を授業に取り入れたいと思っています。具体的には、子どもたちが、積極的に英語で会話する姿、正確で整った英語の原稿を読み上げるだけでなく、子どもがそのとき考えた、自分がまさにその場で言いたいこと・想いを、簡単な英語でいいので、間違いを恐れず表現する、そんなコミュニケーションの場を授業の中でつくって、子どもに体験させたいです。大きな方向性をもとに、今後はその具体的な手立てを毎日毎日、毎時間毎時間、地味に、地道に、一歩ずつ、考え、実践していきます。

このような機会を与えてくださった全ての皆様、そして、12名の親善大使のみなさんに心より感謝申し上げます。親善大使のみなさんが、将来活躍することを楽しみにしながら、私も「英語を話し世界に通用する人材の育成を目指す」という燕市の目標に資するよう、今後も精一杯努力して参ります。



Lone Pine Koala Sanctuaryにて



生徒の活動を支援しながら英語の研修

燕市教育委員会 学校教育課 指導主事 有本千晴

Jack & Bettyプロジェクトの海外派遣事業は、2年目を迎えました。今回の訪問先は、日本のほぼ真南に位置するオーストラリアでした。

オーストラリアの魅力のひとつは、環境と生態系だと思います。現地を訪れ目にすることで、その貴重さ、素晴らしさと国を上げての保護活動に感動を覚えます。親善大使の皆さんには、その魅力を文字通り肌で感じてもらうことができたと思います。

また、底なしに明るく楽観的なオーストラリアの人々との交流で、難しい英語も「間違いなど気にしなくても大丈夫」という楽な気持ちをもつことができたのではないのでしょうか。ホスト・ファミリーやバディ・ステューデントにも恵まれ、日に日に周囲に順応していく皆さんを見るのは、何よりの喜びでした。

現地での度重なる予定変更にも臨機応変に対応して、常に前向きで意欲的な姿勢をもち続ける様子に、親善大使としての立場と責任を強く自覚してくれているのだと実感しました。

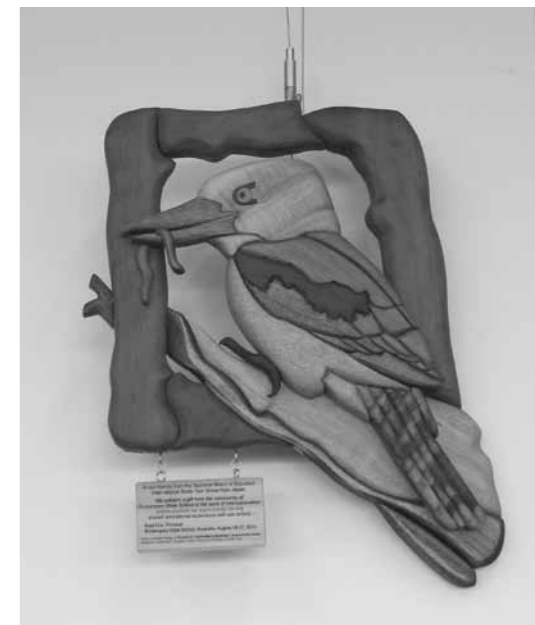
燕市のPR活動では、300人以上の聴衆を前にして、堂々とした態度で自信をもって英語で説明することができました。現地校の校長先生からは、「来年も来てください」「あなたたちを受け入れて本当に良かった」という最大級の賛辞をいただきました。

「またオーストラリアに行きたい」「ホスト・ファミリーと再会したい」という気持ちをもつことができたのも、貴重な経験でした。現地の方々との絆を見付けられたことも、今回の海外派遣が得がたい経験であったことの証明です。いつの日にか自分の力で外国へ行き、今回の経験を役立ててください。

皆さんが今後も英語の勉強を続けるとともに、今回の経験を生かして、燕市の未来を担うリーダーとして活躍することを期待しています。



Book WeekでのParade（低学年の集会）。児童も先生方も仮装します。



Burpengary State Schoolから燕市教育委員会に贈られたKookaburra（笑いかワセミ）の壁掛け。

【姉妹都市交流事業】 アメリカ合衆国ミシガン州ダンディ村



【親善大使海外派遣事業】
オーストラリア連邦クイーンズランド州バーペンゲリー市





燕 市